

平成 28 年度 事業実績報告書



(平成 28 年度実施状況)

平成 29 年 12 月

公益財団法人 岩手県漁業担い手育成基金

目 次

○ 漁業担い手育成基金の概要	1
1 組 織	2
2 平成 28 年度事業実績総括表	3
3 平成 28 年度事業実施状況	4
4 実施結果報告	8
1 漁業担い手確保対策事業	
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	8
(2) 水産高校等連携育成事業	13
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	17
3 青年等漁業者資質向上活動支援事業	
(1) 研究グループ等活動事業	
ア 研究実践活動	23
イ 研修活動	64
(2) 青年等交流活動事業	
ア 情報交換会の開催等	69
イ 地区活動研究実績発表大会	73
(3) 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）	76
5 漁業復興担い手確保支援事業・事務事業実績	80
6 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程	82
7 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則	84

○ 漁業担い手育成基金の概要

1 目的

本基金は、漁業生産を担う漁業者の確保及び育成を図るため、漁業を志向する青年等の就業促進及び青少年等の漁業に対する理解の向上や青年等漁業者の漁業経営及び漁家生活等の改善向上を図るための自主的活動等に対して支援を行い、もって本県漁業・漁村の健全な発展に寄与することを目的とする。

2 事業の内容

前記の目的を達成するため、次の事業を行います。

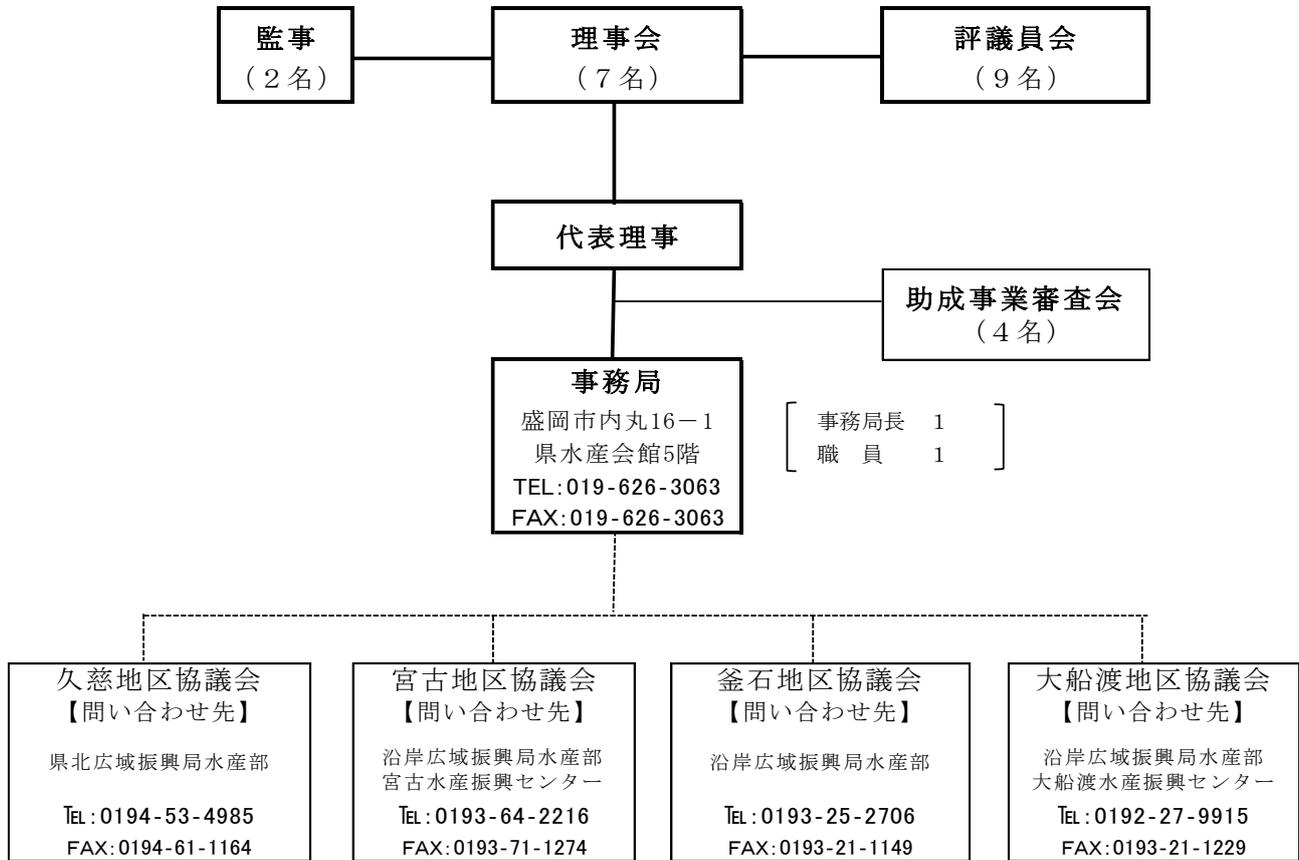
- (1) 漁業担い手の確保に関する支援事業
- (2) 新規漁業就業者等の育成に関する支援事業
- (3) 青年等漁業者の経営等の改善向上に関する組織活動支援事業
- (4) 地区における漁業担い手対策を総合的に推進するための協議会活動支援事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 基金の概要

- (1) 名 称 公益財団法人 岩手県漁業担い手育成基金
- (2) 設立年月日 平成3年10月1日（平成24年4月1日から公益法人に移行）
- (3) 所在地 盛岡市内丸16番1号（岩手県水産会館内）
- (4) 設立根拠法 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第4条
- (5) 代表者 岩手県漁業協同組合連合会代表理事会長 大井誠治
- (6) 基本財産 510,000千円
- (7) 出捐状況

区 分	出捐総額(百万円)	比率 (%)	摘 要
県	250	49	
市 町 村	75	15	沿岸12市町村
漁業団体	175	34	27漁協、連合会等
そ の 他	10	2	海づくり大会寄付金
計	510	100	

1 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金の組織



役員及び評議員 (H29.3.31現在)

役員

代表理事	大井誠治	県漁連会長
理事	五日市周三	県農林水産部技監
理事	藤島純悦	県漁業共済組合専務
理事	工藤大輔	県議会議員
理事	横山英信	岩手大学教授
理事	小野寺恵	メグミプランニング代表
理事	伊藤正明	県内水面漁連専務
監事	向井田敏宏	県町村会事務局長
監事	盛合久雄	県信漁連常勤監事

評議員

評議員	岩脇洋一	県信漁連会長
評議員	門坂繁樹	JF共水連岩手支店長
評議員	佐藤信逸	山田町長
評議員	猪又良彦	岩手県漁業士副会長
評議員	平子昌彦	Jf漁青連副会長
評議員	崎山恵美子	県漁協女性部連絡協議会副会長
評議員	金澤広利	県産業教育振興会事務局長
評議員	五日市知香	パイロットフィッシュ代表
評議員	大森正明	元県農林水産部技監

平成28年度漁業担い手育成基金事業実績総括表

事業区分	実施主体	件数	助成額(円)	備考
1 漁業担い手確保対策事業		15	1,172,610	
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	漁業協同組合、水産高校等	10	496,000	
(2) 水産高校等連携育成事業	水産高校	3	476,818	
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	宮古市漁業就業者育成協議会等	2	199,792	
2 漁業担い手育成対策事業		1	200,000	
(1) 新規漁業就業者交流事業		0	0	
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	千葉幸男	1	200,000	
(3) OJT研修支援事業		0	0	
3 青年等漁業者組織活動支援事業		18	2,348,108	
(1) 研究グループ等活動事業		9	1,822,140	
① 研究実践活動	漁業青年部・研究グループ等	7	1,472,140	
② 研修活動	同上	2	350,000	
③ 資格取得活動		0	0	
(2) 青年等交流活動事業		5	289,536	
① 情報交換会の開催	宮古市漁業就業者育成協議会等	3	201,980	
② 地区活動研究実績発表大会	JF漁青連大船渡支部等	2	87,556	
(3) 地域リーダー研修事業(漁業士会活動等)	漁業士会、女性部連絡協議会	4	236,432	
4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業		0	0	
合計		34	3,720,718	

3 平成 28 年度事業実施状況

1 概況

東日本大震災から 6 年が経過し、本県漁業の復旧状況は、漁業生産の基盤となる漁船や養殖施設は概ね復旧している状況にあり、また、生産面では、ワカメ・コンブの海藻類の養殖に加え、貝類養殖についても徐々に出荷が始まっています。また、背後施設等復旧、復興住宅の建設、住宅の高台移転等進んできています。「がんばる養殖」については、本年度末をもってほぼ終了する状況となっており、グループ生産から個人生産への移行が進むものと思われれます。今後は、高齢者の養殖からの離脱による生産量の減少が心配されることです。個人経営体数については、平成 25 年度（第 13 次）漁業センサスによると前回の 5,204 に比べ 3,278 と 63% と大幅に減少しており、担い手の確保が急務となっています。

このため、平成 28 年度の実業運営におきましては、震災前のように担い手の確保、育成、若青年漁業者の活動支援に軸足を移してまいりました。しかしながら、8 月に来襲した台風 10 号により中北部を中心に大きな被害を被ったことから、助成事業については、やむなく中止に至った事業も発生しました。

また、国の漁業復興担い手確保支援事業の活用により新たに新規漁業就業者 16 名（漁家子弟 5 名、未経験者 11 名）の研修を支援するなど、本県漁業担い手の維持・確保に努めました。

2 事業実施状況

(1) 漁業担い手確保対策事業

ア 小中学生漁業体験・学習事業

事業内容	対象団体数	延回数	延日数	参加人数	助成額（円）
1 漁業体験学習等	10	10	22	396	396,000
2 水産高校等 1 日体験入学	2	2	2	198	100,000

イ 水産高校等連携育成事業

事業内容	対象団体数	実施期間	延日数	参加人数	助成額（円）
海洋環境調査、カキ天然採苗試験、水産加工品開発	3	周年	285	37	476,818

ウ 漁業志向青年等体験学習事業

事業内容	実施団体数	実施日数	参加人数	事業費（円）	助成額（円）
体験漁業の実施	2	5	7	278,322	199,792

(2) 漁業担い手育成対策事業

ア 新規漁業就業者技術研修事業

指導者数	研修生数	研修内容	延研修日数	事業費（円）	助成額（円）
1	1	さんま漁業、タラ延縄	25	200,000	200,000

(3) 青年等漁業者資質向上活動支援事業

ア 研究グループ等活動事業

(ア) 研究実践活動

地区	研究課題等	実施団体	実施期間	事業費 (円)	助成額 (円)
大船渡	マガキ天然採苗試験	広田湾漁協青壮年部 米崎支部	8月～2月	81,210	81,210
大船渡	CSA と連携した養殖ホ タテの販路拡大	綾里漁協小石浜青年 部	10月～11 月	197,800	197,800
釜石	未利用資源を使用し た加工品・料理の開発	釜石湾漁協白浜浦女 性部魚食普及研究グ ループ	4月～3月	300,553	275,553
宮古	未利用資源を用いた 商品開発及び試験販 売	小本浜漁業協同組合 女性部生活改善グ ループ	5月～12 月	132,285	132,285
宮古	マボヤ人工採苗技術 導入試験	船越湾ほや養殖研究 グループ	1月	406,836	350,000
久慈	アワビ資源有効活用 調査	玉川浜漁業研究会	10月～2 月	85,292	85,292
久慈	マボヤの採苗養殖試 験	大尻漁業研究会	4月～3月	382,389	350,000

(イ) 研修活動

地区	研修内容	実施団体	研修期間	事業費 (円)	助成額 (円)
宮古	定置網漁業の先進地 視察	田野畑村漁協青年部	8月	338,830	150,000
久慈	全国カキサミットへ の参加	野田漁友会	3月	247,420	200,000

イ 青年等交流活動事業

(ア) 情報交換会の開催等

地区	活動内容	実施団体	実施時期	参加人数	事業費 (円)	助成額 (円)
全県	漁業士連絡協議会及び全国青年女性漁業者交流大会	岩手県漁業士会	3月	2	106,120	88,120
全県	全国青年女性漁業者交流大会	岩手県漁協女性部連絡協議会	3月	1	71,360	63,860
宮古	未婚漁業者等交流会	宮古市漁業就業者育成協議会	2月	16	330,748	50,000

(イ) 地区活動研究実績発表大会

地区	活動内容	実施主体	実施時期	参加人数	事業費	助成額
大船渡	気仙地区活動実績発表大会	J F 漁青連 気仙支部	1月	42名	27,556	27,556
久慈	九戸地区漁村青年活動実績発表大会	J F 漁青連 九戸支部	6月	50名	65,800	60,000

ウ 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）

地区	活動内容	実施団体	実施時期	延べ 参加人数	事業費 (円)	助成額 (円)
大船渡	宮城県漁業士会 北部支部との交流	岩手県漁業士会大船渡支部	8月	10	104,900	37,400
久慈	青森県三八漁業士会との交流	岩手県漁業士会久慈支部	2月	11	50,000	50,000
全県	漁業士会総会後の研修会	岩手県漁業士会	6月	73	278,274	100,000
全県	漁業士研修会	岩手県漁業士会	2月	9	49,032	49,032

(4) 漁業復興担い手確保支援事業・事務受託（漁業担い手対策推進事業）

本県漁業担い手の維持・確保を図るため、被災した若青年漁業者の技能向上・生活の確保及び新規就業者の確保を内容とする漁業復興担い手確保支援事業について、事業主体である全国漁業就業者確保育成センターからの委託を受けて一次受入機関である漁協の計画策定・精算事務の指導を行った。

ア 平成 28 年度新規計画策定指導実績

事業区分	受入機関数	研修生数	計画事業費（円）
2 新規就業者（漁家子弟）確保支援事業（研修支援 9.4 万円/月）	5+機関	6 人	13,973,932
3 新規就業者（未経験者）確保支援事業（研修支援 9.4 万円/月～18.8 万円/月）	9 機関	11 人	43,092,925
4 資格等習得支援事業（講習会等の受講料等の支援）	—	延 68 人	5,167,945
計	延 43 機関	延 112 人	62,234,802

イ 平成 28 年度精算事務指導実績

事業区分	研修生数	精算額（円）
2 新規就業者（漁家子弟）確保支援事業（研修支援 9.4 万円/月）	51 人	41,177,412
3 新規就業者（未経験者）確保支援事業（研修支援 9.4 万円/月～18.8 万円/月）	33 人	46,929,711
4 資格等習得支援事業（講習会等の受講料等の支援）	延 68 人	5,167,945
計	延 157 人	93,275,068

4 実施結果報告

1 (1) 小中学生漁業体験・学習事業

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
<p style="text-align: center;">綾里漁業協同組合</p>  <p style="text-align: center;">清水輪定置網起こし</p>  <p style="text-align: center;">新巻づくり</p>	<p>「大船渡市綾里地区 体験学習・少年水産教室」</p> <p>漁業に対する理解と関心を高めるため、綾里中学校1・2年生を対象に漁業体験学習を実施した。</p> <p>① 洋上見学 ・定置の網起こし体験 ・縄結び実技</p> <p>② 新巻づくり体験</p> <p>*指導者 清水輪定置従業員、綾里漁協青壮年部、指導漁業士、漁協職員</p>	<p>① ・綾里小石浜漁港 ・漁協会議室</p> <p>② 綾里漁協荷捌施設</p>	<p>① 11/2 ② 11/9・11/14</p>	<p>① 中学生 21名 その他 6名 計 27名</p> <p>② 中学生 20名 その他 15名 計 35名</p>
<p style="text-align: center;">高田高等学校</p>   <p style="text-align: center;">海洋科学コース</p>   <p style="text-align: center;">食品科学コース</p>	<p>「岩手県立高田高等学校 1日体験入学」</p> <p>本校の教育内容を中学生に理解してもらい、中高連携した進路指導をおこなうことを目的に実施する。</p> <p>① 海洋科学コース C型艇による操船及びロープワーク（大船渡湾内）</p> <p>② 食品科学コース 揚げかまぼこ製造及びアミエビパン製造（本校食品実習場）</p> <p>*指導者 海洋システム科2・3年生 31名 海洋システム科職員 8名</p>	<p>① 大船渡湾内</p> <p>② 本校施設</p>	<p>7/29</p>	<p>中学生 25名</p>

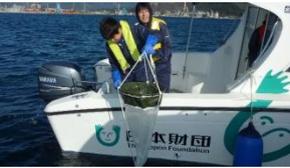
<p>大船渡市漁業協同組合</p>  <p>末崎中学生</p>   <p>わかめ種苗の巻き付け</p>	<p>「末崎中学校 わかめ養殖体験事業」 総合的な学習の時間産土タイムわかめ種まき作業を通じて、地域産業の大切さ及び漁業後継者育成の環境整備を目指す。</p> <p>*総合的な学習の時間(産土タイム) わかめ種まき作業・・・わかめ施設に種苗を巻き付け、わかめ生産物の収穫をして、生徒自身で商品化し販売まで手掛ける。</p> <p>*指導者 尾崎 眞 (末崎中学校産土タイムスーパーバイザー) 南浜わかめ養殖組合役員</p>	<p>女島沖合 海上</p>	<p>11/24</p>	<p>中学生 32名 その他 5名 計37名</p>
<p>釜石湾漁業協同組合</p>  <p>説明</p>  <p>塩蔵</p>  <p>乾燥</p>	<p>「平田地区 少年水産教室」 釜石地域の水産業への理解と憧れを因るため、釜石市立平田小学校5年生24名を対象に、漁業体験学習を実施した。</p> <p>① サケふ化放流学習 サケふ化放流事業及び定置網漁業等の説明（講義：漁協職員等）</p> <p>② サケ加工実習 サケの塩蔵加工の実施（えら、内臓除去、洗浄、塩蔵）</p> <p>③ サケ加工実習 サケの塩蔵加工の実施（洗浄、乾燥）</p> <p>*指導者 釜石湾漁業協同組合職員2名、組合員2名、員外1名</p>	<p>①～③ 平田漁港</p>	<p>① 11/29 ② 11/29 ③ 12/6</p>	<p>① 小学生 24名 その他 13名 計37名 ② 小学生 24名 その他 13名 計37名 ③ 小学生 24名 その他 13名 計37名</p>

<p>新おおつち漁業協同組合</p>   <p>刈取り及びボイル塩蔵作業</p>	<p>「吉里吉里学園 中学部 ワカメ養殖漁業体験実習」</p> <p>漁業体験をとおして、地域水産業への興味及び理解を図る。</p> <p>① 養殖桁へのわかめ種苗の巻込み作業 ② 刈取り及びボイル塩蔵作業</p> <p>*指導者 漁協職員1名 漁業者（倉本修一他3名（吉里吉里ワカメ養殖組合員））</p>	<p>① 船越湾 ワカメ養殖漁場</p> <p>② 吉里吉里漁港</p>	<p>① 11/16 ② 2/25</p>	<p>① ② 中学生35名 その他25名 計60名</p>
<p>重茂漁業協同組合</p>  <p>サケ稚魚放流</p>  <p>サケの採卵</p>  <p>親子でサケを捌く様子</p>  <p>鮭つるし作業の様子</p>	<p>「重茂小学校 新巻鮭づくり体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケ稚魚放流、ふ化場見学、サケ定置網、新巻づくり体験を通して、水産業に対する理解を深め、地域の重要産業である水産業の後継者の育成に資する。 ・海を中心とした郷土の自然や環境と、そこに棲む生物との結びつきに理解を深め、郷土の自然を愛し、環境を守ろうとする意識を育てる。 <p>① サケふ化場見学（・サケ稚魚放流・鮭の採卵、受精見学・鮭の飼育、観察活動） ② 新巻鮭づくり体験（・鮭の解体・塩漬け作業）（・洗い・乾燥準備作業）</p> <p>※11月に予定していた秋サケ定置網見学は天候が合わなかったため実施できず。</p> <p>*指導者 ○サケふ化場見学……阿部翔一（重茂小学校教員）、重茂漁協職員（3名） ○新巻鮭づくり体験……小田潔恵（重茂小学校教員）、PTA役員（6名）</p>	<p>① 重茂川 鮭ふ化場、 重茂小学校</p> <p>② 里漁港、漁港関連施設 重茂小学校体育館脇</p>	<p>① 4/14、11/21 ② 12/1、8</p>	<p>① 稚魚放流小学生49名 その他5名 計54名 飼育学習小学生16名 その他2名 計18名</p> <p>② 両日小学生17名 その他39名 計56名</p>

<p>三陸やまだ漁業協同組合</p>  <p>大浦小学校 1 回目</p>  <p>大浦小学校 2 回目</p>  <p>轟木・織笠小学校</p>	<p>「山田町内の小学生を対象とした水産教室」 水産業に対する理解と関心を高めるために管内の小学生を対象に体験学習（新巻鮭づくり）を実施。</p> <p>体験学習「新巻鮭づくり」 第1回目・鮭の解体作業・塩漬け作業 第2回目・塩抜き洗浄作業・乾燥準備作業</p> <p>① 大浦小学校 ② 織笠・轟木小学校</p> <p>*指導者 漁業者2名（山崎拓真、秋田栄喜） 漁協職員2名（孵化場長、荒川誠販売係長、）</p>	<p>① ② 大浦 荷捌き施設 織笠ふ化場</p>	<p>12/5、 12/9、 12/12</p>	<p>① 大浦小学校 6年生4名 計4名 ② 織笠小学校 5年生8名 6年生8名 計16名 轟木小学校 5年生2名 6年生5名 計7名</p>
<p>宮古水産高等学校</p>  <p>海洋コース</p>  <p>栽培コース</p>  <p>食品管理系</p>	<p>「平成 28 年度中学生一日体験入学」 下閉伊管内を中心とした、中学3年生を対象とし、校内外の施設見学及び各科の実習室等において特色を活かした体験的学習を実施する。この体験をとおして進路選択の参考にしてもらうとともに、水産業の重要性を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋技術科…海翔体験航海・ユニタ発生実験・解剖 ・食品家政科…水産食品加工実習・手芸制作実習等 ・食物科…調理体験等 <p>*指導者 宮古水産高等学校職員及び生徒</p>	<p>岩手県立 宮古水産 高等学校</p>	<p>7/29</p>	<p>中学生 159名</p>

<p>種市南漁業協同組合</p>  <p>ウニ採り体験</p>  <p>ウニ剥き</p>  <p>塩ウニ瓶詰め</p>	<p>「宿戸地区 少年水産教室」</p> <p>宿戸地区中学1年生(約32人)を対象に、地区の特産物であるウニ採捕および加工体験の体験学習を通じ、地域漁業者との交流を深め次代の漁業担い手育成を図った。</p> <p>① ウニ採り体験 ② 塩ウニづくり体験 ③ 塩ウニ瓶詰め作業体験</p> <p>*指導者 種市高等学校、県北広域振興局水産部、宿戸漁業研究会、宿戸女性部、漁業士</p>	<p>洋野町宿戸</p>	<p>8/3～5</p>	<p>中学生 32名 計32名</p>
<p>久慈市漁業協同組合</p>  <p>定置乗船体験</p>  <p>ウニ漁業体験</p>  <p>鮭新巻きづくり体験</p>	<p>「久喜地区 少年水産教室」</p> <p>久喜地区4～6年生を対象に体験活動により漁業に対する理解と関心を高め、漁業担い手の維持確保を図るため漁業体験学習を実施した。</p> <p>① 漁業体験学習 屋形定置網起こし見学、船上磯観察、船漕ぎ、ウニ採り、ウニ剥き体験 ② 鮭いくらづくり、鮭新巻きづくり ③ 鮭新巻き塩洗浄、鮭新巻き干し</p> <p>*指導者 県北広域振興局水産部、久慈市役所林業水産課、久喜漁業生産部、久喜漁業研究会、久喜女性部、久喜屋形定置、久喜小PTA、久慈市漁協</p>	<p>① 久喜港、荷捌き施設、屋形定置漁場 ② 久喜港、荷捌き施設、 ③ 久喜小学校</p>	<p>① 7/8 ② 11/15 ③ 11/25</p>	<p>① 小学生34名 その他47名 計81名 ② 小学生8名 その他21名 計29名 ③ 小学生8名 その他11名 計19名</p>

(2) 水産高校等連携育成事業

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
<p>高田高等学校</p>  <p>プランクトン採取</p>  <p>顕微鏡観察</p>  <p>ケンミジンコの一種</p>  <p>コノハエビ</p>  <p>大型のプランクトンネット</p>  <p>実習船を用いたプランクトン採取</p>	<p>「平成 28 年度 水産クラブ研究活動」 水産クラブ研究活動を通じて、水産・海洋等が抱える問題や、水産・海洋に関心を持ちながら、自らテーマを設定し、そのテーマに沿って解決出来る能力を育成する。</p> <p>① 【プランクトン調査】 広田湾内に生息するプランクトンの調査をおこなった。</p> <p>② 【新商品の開発】 地元の水産物を使い、新商品の開発をおこなった。 (大船渡港に水揚げされたサンマやツノナシオキアミを使用し、「サンマみりん干しカレー味」や「アミエビパン」などを開発した。)</p> <p>(*冊子には‘海洋コース研究報告書’を添付します。)</p>	<p>① 広田湾 ② 本校食品実習場</p>	<p>① ② 5月～ 12月</p>	<p>各 8 名</p>

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
<p data-bbox="180 253 411 286">宮古水産高等学校</p>  <p data-bbox="244 539 347 573">適地選定</p>   <p data-bbox="196 1182 395 1216">プランクトン調査</p>  <p data-bbox="260 1391 331 1424">採苗器</p>  <p data-bbox="220 1675 371 1709">稚貝付着調査</p>  <p data-bbox="244 1962 347 1995">自生牡蠣</p>	<p data-bbox="467 253 986 365">「宮古湾でのカキ天然種苗研究」 宮古湾内でのマガキ天然採苗について研究し、宮古オリジナルカキを養成する。</p> <p data-bbox="467 409 986 488">【宮古湾におけるカキ天然採苗についての研究】</p> <ul data-bbox="483 495 730 645" style="list-style-type: none"> ・適地選定 ・プランクトン調査 ・稚貝付着調査 ・育成試験等 <p data-bbox="467 689 986 969">大震災津波により大打撃を受けたマガキ養殖を復興するにあたり、他県からの種苗購入に頼らず、地元産のマガキを採苗して地元生まれの地元カキ宮古オリジナルブランドの生産を目指してスタートした研究活動も、今年度で4年目を迎えた。</p> <p data-bbox="467 969 986 1361">採苗を可能にするためにどうすればよいか始めから検討することから活動をスタートした。マガキの生態生理について調べ、昨年度までのデータ等と比較しながら、宮古湾の産卵時期を推測した。産卵を誘発する要因についても検討しながら採苗器の投入時期、場所を決定した。今年度の研究活動のなかで、牡蠣の自然放卵放精の場面に出くわすことができたのが、最大の収穫であった。</p> <p data-bbox="467 1361 986 1518">浮遊幼生の調査と採苗器への付着調査や、実体顕微鏡を使用してカキ幼生の付着を熱心に探し、多くの付着を確認できた。</p> <p data-bbox="467 1518 986 1641">各研究発表でも評価して頂き、全国水産・海洋系生徒研究発表大会に出場することができた。</p> <p data-bbox="483 1686 603 1720">【講師名】</p> <p data-bbox="467 1731 986 1798">宮古水産振興センター 水産振興課 野呂 忠勝</p> <p data-bbox="467 1843 986 1977">（*冊子には‘平成28年度第57回岩手県高等学校水産クラブ研究発表会’での内容を添付します。）</p>	<p data-bbox="1010 253 1090 286">宮古湾</p>	<p data-bbox="1201 253 1297 331">7月 ～1月</p>	<p data-bbox="1337 253 1441 432">海洋技術 科 栽培 コース 3名</p>

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
<p data-bbox="193 253 395 282">久慈東高等学校</p>   <p data-bbox="185 927 403 956">ホヤインハンバーグ</p>   <p data-bbox="221 1798 368 1827">ホヤイカメシ</p>	<p data-bbox="469 253 979 320">「久慈の特産物を利用した新しい水産加工品の開発」</p> <p data-bbox="469 331 979 443">地域水産業の活性化を目指した地域水産物を利用した水産加工品の開発</p> <p data-bbox="469 495 967 920">昨年度は、全校生徒、職員を対象にホヤに関するアンケートを実施し、その結果 ①高校生の約半数がホヤを食べたことがない、②高校生の8割以上が嫌い、③ホヤの外部形態を不快に思う高校生が多い、④食わず嫌いのホヤ嫌いが多いという結果を得たので、ホヤの原型を無くし、ホヤの食品だと言われないと分からないような食品を作りだし、ホヤの利用促進につながるようにすることを研究目的に取り組んだ。</p> <p data-bbox="469 931 967 999">【ホヤの原型をなくすこと・地元の食品に組み入れること】</p> <p data-bbox="469 1010 967 1155">ホヤのむき身の姿を大きく変える方法は、A：ミンチ上にする、B：細かく刻んで何かを混ぜる、C：何かに包む、このA～Cを組み合わせてみた。</p> <p data-bbox="469 1167 967 1357">次に原型をなくしたホヤのむき身と組み合わせる食品（短角牛、そば、アワビ、ドンコ、まめぶ汁）について、生徒とみんなで話し合ったが絞りきれなかった。</p> <p data-bbox="485 1368 767 1397">【ホヤインハンバーグ】</p> <p data-bbox="469 1408 967 1879">2008年度の久慈東高校の生徒会誌に掲載されていた、山形村の「短角牛」と「スルメイカ」を組み合わせた「イカ短ハンバーグ」をヒントにA（短角牛の生のハンバーグ生地にホヤを混ぜたもの）、B（事前にホヤを炒め、さました後にハンバーグ生地に混入させたもの）、鶏と牛の合い挽肉のハンバーグを試作した。Aは水っぽいものになり、Bは、ハンバーグの中にホヤの味が点在し、ホヤの味がしっか主張している印象であった。</p> <p data-bbox="501 1890 699 1919">【ホヤイカメシ】</p> <p data-bbox="469 1930 967 1998">ホヤをイカメシの中に隠したらどうなるのか。</p> <p data-bbox="501 2009 967 2031">通常のイカメシのつくり方に、細かく</p>	<p data-bbox="1003 253 1179 331">久慈東高等学校</p>	<p data-bbox="1197 253 1315 376">11月下旬 ～2月下旬</p>	<p data-bbox="1331 253 1441 432">海洋科学 系列 2、3年 26名</p>

	<p>刻んだホヤを入れてみた。通常のイカめしの醤油ベースの味とり、ホヤのテクスチャーは、ほとんど感じられなかった。</p> <p>次期作品はホヤを食塩で脱水し、流水で1時間で塩抜きし、餅米とともにイカの中に入れ、煮込んだ。餅米と相性が良く、クリーミーな印象を受けた。また、味が薄く、何かに漬けて食べたいというものがあった。</p> <p>ホヤと餅米の混合比の最適化、昆布だしとの組合せ施行、ホヤの脱水に関する食塩の量的な問題、脱塩工程の流水量の最適化等が今後検討が必要。</p>			
--	---	--	--	--

(3) 漁業志向青年等体験学習事業

行 事 名	漁業者募集用広報資材作成		
実 施 主 体	岩泉町漁業就業者育成協議会	参加者数	合 計 名
総 事 業 費	99,792円	うち基金助成額	99,792円
事業の目的	漁業就業者を招致するため、漁業就業希望者に対して配布する広報資材を作成した。		
実施時期、 場所、参 加者等	<p>【日時】 平成28年11月6日</p> <p>【場所】 東京海洋大学 白鷹館 (いわての浜暮らしセミナーin 東京)</p>		
事業内容 (結果)	<p>「いわての浜暮らしセミナーin 東京」で当協議会のブースにポスターを掲示し、来場者の招致を図ったが、当ブースへの来場者は無くリーフレットの配布はできなかった。しかしながら、ポスターを掲示した事により、少しではあるかもしれないが、小本浜の魅力が伝えられる事ができたと思う。</p> <p>今後は協議会の構成員である岩泉町や、小本浜漁協のリーフレット置き場へパンフレット等を陳列し、新規漁業就業者の獲得へ向け活動を継続する予定である。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>		

行 事 名	宮古地区体験漁業実施事業		
実施主体	宮古市漁業就業者育成協議会	参加者数	合計 2 名
総事業費	178,530円	うち基金助成額	100,000円
事業の目的	漁業就業を志向する青年等を対象とした漁業体験を実施し、漁業就業意識を高める。		
実施時期、 場所、参 加者等	<p>○定置網漁業体験 【日時】 平成 28 年 12 月 2 日（金）午前 2 時から午前 8 時 【場所】 与奈・平島定置漁場 【参加者】 漁業就業希望者 2 人</p> <p>○カキ養殖漁業体験 【日時】 平成 28 年 12 月 9 日（金）、16 日（金）午前 7 時から正午 【場所】 一区第 118 号津軽石前及び堀内カキ処理施設 【参加者】 漁業就業希望者各日 1 人</p> <p>○わかめ・こんぶ養殖漁業体験 【日時】 平成 29 年 2 月 18 日（土）、24 日（金） 【場所】 一区第 107 号かるまん崎（田老字撰待地区）18 日 一区第 123 号音部前 24 日 【参加者】 漁業就業希望者 18 日 1 人、24 日 2 人</p>		
事業内容 (結果)	<p>当協議会で定置網漁業及び養殖漁業の漁業体験を企画し、漁業就業を希望または検討する者を対象に公募を行い、漁業者の指導の下、希望する漁業種類の漁業体験を実施した。</p> <p>○定置網漁業体験 【日時】 平成 28 年 12 月 2 日（金）午前 2 時から午前 8 時 【場所】 与奈・平島定置漁場 【参加者】 漁業就業希望者 2 人 【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前 1 時 30 分に与奈平島定置番屋に集合し、3 役から定置網漁業についてレクチャーを受ける。 ・午前 2 時頃に重茂漁港を出港し与奈、平島定置網の網起しを体験 <ul style="list-style-type: none"> ・午前 5 時 30 分頃、宮古市魚市場での水揚げを体験し帰港 ・午前 7 時頃帰港し、定置番屋で朝食を頂き体験を終了 		
			
	午前 2 時頃重茂漁港を出港		網起しを体験



宮古市魚市場での水揚げを体験



番屋での朝食

○カキ養殖漁業体験
(1回目)

【日時】 平成 28 年 12 月 9 日 (金) 午前 7 時から正午

【場所】 一区第 118 号津軽石前及び堀内カキ処理施設

【参加者】 漁業就業希望者 1 人

【実施内容】

- ・午前 7 時に堀内カキ処理施設に集合し、漁場に向けて出港
- ・漁場においてカキ養殖のレクチャーを受けながら水揚げ作業
- ・午前 8 時 30 分頃、堀内カキ処理施設においてカキ剥きと出荷準備作業を体験し正午頃に体験を終了

事業内容
(結果)



午前 7 時出航



水揚げ作業



カキ剥き作業



出荷準備作業

(2回目)

【日時】 平成28年12月16日(金) 午前7時から正午

【場所】 一区第118号津軽石前及び堀内カキ処理施設

【参加者】 漁業就業希望者1人

【実施内容】

- ・午前7時に堀内カキ処理施設に集合し、漁場に向けて出港
- ・漁場においてカキ養殖のレクチャーを受けながら水揚げ作業
- ・午前8時30分頃、堀内カキ処理施設においてカキ剥きと出荷準備作業を体験し正午頃に体験を終了

事業内容
(結果)



カキ養殖体験



直売施設(堀内カキ処理施設内)を見学

○わかめ・こんぶ養殖漁業体験

(1回目)

【日時】 平成29年2月18日(土)

【場所】 一区第107号かるまん崎(田老字撰待地区)

【参加者】 漁業就業希望者1人

【実施内容】

- ・午前7時に撰待漁港に集合し、漁場に向けて出港
- ・漁場においてわかめ・こんぶ養殖漁業のレクチャーを受けながら間引き、手入れ作業を体験
- ・正午頃、撰待漁港に帰港し体験を終了



レクチャーを受ける



間引き作業

(2回目)

【日時】 平成 29 年 2 月 24 日 (金)

【場所】 一区第 123 号音部前

【参加者】 漁業就業希望者 2 人

【実施内容】

- ・ 午前 7 時に音部漁港に集合し、漁場に向けて出港
- ・ 漁場においてわかめ・こんぶ養殖漁業のレクチャーを受けながら間引き、手入れ作業を体験
- ・ 午前 10 時頃、指導者宅において、わかめ塩蔵施設、こんぶ乾燥施設を見学し 11 時頃に体験を終了

事業内容
(結果)



音部漁港を出港



レクチャーを受ける



間引き作業



塩蔵設備を見学

<p>事業内容 (結果)</p>	<p>【参加者の感想等】</p> <p><定置網、カキ、わかめ、コンブ養殖を体験>Aさん・48歳（秋田県横手市）・建築業</p> <p>*参加のきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前から漁業に関心があり、漁業に転職をするには年齢的に最後のチャンスだと思った。 <p>*体験の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験し以前より漁業に就業したい気持ちが強くなった。 ・体験のために宮古市にか通ったことで、豊かな森と川があつて、豊かな漁業が営まれていることが分かった。ぜひ、宮古市で就漁したい。（新規就漁に向けて各漁協と協議中） <p><定置網、カキ養殖を体験>Bさん・36歳（東京都練馬区）・個人輸入業</p> <p>*参加のきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で水産を学び、いずれは漁業に携わりたいと思っていた。 <p>*体験の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験し、以前より漁業に就業したい気持ちが強くなった。 ・宮古市に移住して漁業就業することを考えたい。 <p><わかめ、コンブ養殖を体験>Cさん・31歳（北上市）・農業</p> <p>*参加のきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人経営する農業の従業員をしているが、最近では漁業就業に関心がある。 <p>*体験の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験し、以前より漁業に就業したい気持ちが強くなった。 ・つくり育てる養殖漁業は農業と似通っており、養殖漁業の関心が強くなった。 <p><わかめ、コンブ養殖を体験>Dさん・36歳（宮城県塩竈市）・自動車整備士</p> <p>*参加のきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備士の同僚で漁師に転身した者がおり、自身も海釣りが好きなので就漁を考えたい。 <p>*体験の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験し以前より漁業の楽しさと大変さが分かった。 ・漁業に就業したい気持ちは変わらないが、まずは船酔いを克服したい。
----------------------	--

3 (1) 研究グループ等活動事業

ア 研究実践活動

課 題 名	青年等漁業者組織活動支援事業（研究グループ等活動事業）		
実 施 主 体	綾里漁業協同組合小石浜青年部	構成員数 (うち参加者数)	10名 (8名)
総事業費	197,800円	うち基金助成額	197,800円
事業の目的	C S Aと連携した養殖ホタテの販路拡大		
材料及び方法 (又は実施時期、場所、参加者等)	<p>【実施日時】①平成28年10月15日 ②平成28年11月19日</p> <p>【場 所】①東京都千代田区 ②東京都杉並区</p> <p>【参 加 者】飲食店・小売店・量販店の各関係者及びC S Aコミュニティ関係者 ①33名 ②12名（来場者約5,000人）</p>		
活動内容 (結果及び 考察)	<p>東京都内において、C S Aコミュニティ関係者との連携を活用して飲食店・小売店・量販店の各関係者へ恋し浜ホタテ及び綾里産ワカメのサンプルを提供するなどしてP R活動を行い、更なる販路拡大と供給の安定を図ることができた。</p> <p>また、生産者自身が参加し、震災からの復旧内容や現在の状況並びに水産物の品質の良さなどを具体的に説明することで、消費者と生産者との信頼関係を構築するばかりでなく、東日本大震災以降における三陸水産物の安心と安全を広く周知させ評価を高めることができた。</p> <p>① 綾里産海産物の都内向け商談会の様子（THE1/3 r d）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>② 高円寺座の市（高円寺商店街）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

課 題 名	マガキ天然採苗試験		
実 施 主 体	広田湾漁業協同組合青壮年部米崎支部	構成員数 (うち参加者数)	10名 (10名)
総事業費	81,210円	うち基金助成額	81,210円
事業の目的	マガキ種苗の安定確保に資するため、広田湾内で天然採苗の可能性を探ることを目的とする。		
材料及び方法 (又は実施時期、場所、参加者等)	<p>【材料】 採苗器 (ホタテ殻)、プランクトンネット</p> <p>【方法】 広田湾内において、8月から10月にかけて採苗器を垂下し、マガキの付着稚貝数を計数。また、同時期にプランクトンネットを用いてカキの浮遊幼生(ラーバ)を採取し計数。</p> <p>【場所】 米崎・小友地区(付着調査)、広田地区(付着調査、ラーバ調査)</p> <p>【参加者】 広田湾漁協青壮年部米崎支部、漁協、大船渡水産振興センター水産技術センター</p>		
活動内容 (結果及び考察)	<p>1 米崎・小友地区</p> <p>8/16、8/23、8/30に、沼田岸壁及び脇ノ沢岸壁の2箇所に採苗器をそれぞれ垂下したところ、殻1枚あたり15~20個の稚貝を確認。</p> <p>また、8/16に、両替岸壁及び矢の浦岸壁の2箇所に採苗器をそれぞれ垂下したところ、殻1枚あたり20個程度の稚貝を確認。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>図1 調査地点</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 採苗器垂下状況</p> </div> </div>		

(2) ラーバ調査

8/5、8/19、9/6、9/21、10/7に3箇所（越田、大陽、種場）でそれぞれ採取したところ、8月5日の大陽で12,515個/1000のラーバ数を確認したほか、他の地点でも最大数を確認した。



図4 調査地点

写真3 ラーバ採取

活動内容
(結果及び
考察)

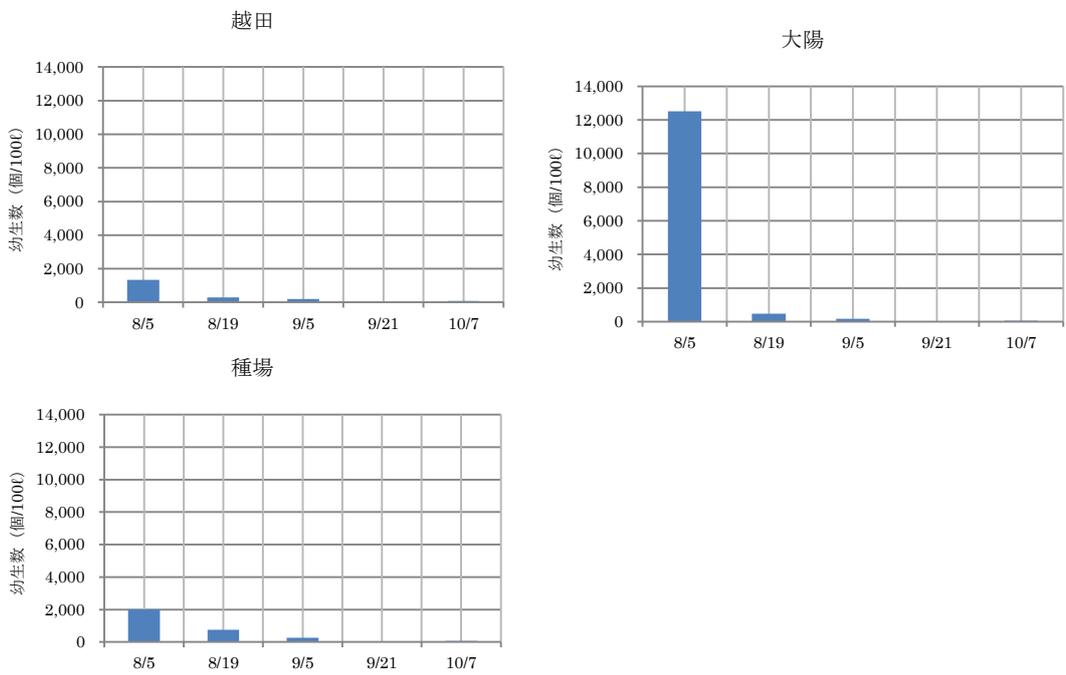


図5 各調査地点のラーバ数

(3) 抑制試験

(1) の付着調査で、稚貝付着のあった採苗器を抑制棚に移動して養成し、平成 29 年 2 月 14 日に回収、付着数および殻高を計測した (表 1)。

9 月 6 日及び 9 月 21 日に垂下して抑制を開始したものについては、回収時に採苗器 1 枚あたり平均 107~165 個、平均殻高は 18~22mm であったが、10 月 7 日に垂下したものについては平均 14~37 個、平均殻高は 18~24mm であった。



図 6 調査地点 (抑制棚)



写真 4 抑制棚と垂下した採苗器

活動内容
(結果及び
考察)

表 1 抑制前後の採苗器 1 枚あたりの稚貝付着個数と殻高
(記載のない項目は抑制中に流失したものなど)

	①9月6日抑制		
	稚貝平均個数(個)		殻高(mm)
	抑制前(9/5)	回収時(2/14)	
大陽岸壁	496.71	106.86	20.0
アワビセンター岸壁	590.43	156.00	21.5
養殖施設(大陽)	100.71	164.71	20.9
養殖施設(越田)	303.86	157.86	18.1

	②9月21日抑制		
	稚貝平均個数(個)		殻高(mm)
	抑制前(9/15)	回収時(2/14)	
越田岸壁	210.29	112.29	23.1

活動内容
(結果及び
考察)

	③10月7日抑制		
	稚貝平均個数(個)		殻高(mm)
	抑制前(10/3)	回収時(2/14)	
アワビセンター岸壁	4.71	14.43	24.1
養殖施設(大陽)	110.43	30.57	17.5
養殖施設(越田)	51.43	36.71	24.2

昨年度の調査に引き続き、今年度についても岸壁、養殖施設とも多数の付着が確認でき、浮遊幼生の発生時期についても併せて確認できたことから、今回調査した地点は採苗する場所として適当であると考えます。

今後、事業化していくために大量の採苗器を抑制する場所を検討する必要がある。

課 題 名	未利用資源を利用した加工品・料理の開発		
実 施 主 体	釜石湾漁業協同組合白浜浦女性部 魚食普及研究グループ	構成員数 (うち参加者数)	88名 (15名)
総事業費	300,553円	うち基金助成額	275,553円
事業の目的	地元で取れる海産物・養殖生産物を利用して加工品等を作り将来、規格外品等の活用と加工品の販売ができる体制を検討する。また、震災後、停滞していた魚食普及活動を行い女性部活動の拡大に取り組む。		
材料及び方法 (又は実施時期、場所、参加者等)	<p>釜石湾漁協白浜浦支所で養殖または採取される海藻、貝類等や刺し網、カゴ等で漁獲された魚介類を使用して以下の項目の検討を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 加工品の試作 月1回程度のペースで、主に規格外品、未利用などの採介藻類、魚類を利用して加工品を開発試作し、地域住民等との試食交流を通じた評価を調査する。(5~3月:8回) 魚食普及活動 内陸の農協女性部等や岩手大学との内陸部での異分野交流を企画し、魚介藻類の調理方法伝授や試作した加工品の試食を通じて魚食普及を図り、女性部活動を拡大させる。(6~3月:3回) イベント等での加工品販売 市内で開催されるイベント等で試作加工品を提供し、魚食普及を行うとともに、漁業関係者以外の一般の評価を調査し、加工品の改良と製造販売を検討する。(5~3月:3回) 		
活動内容 (結果及び考察)	<p>平成27年に釜石湾漁協白浜浦女性部内の組織として「魚食普及研究グループ(以下、研究G)」を立ち上げ、本年度が活動2年目となった。</p> <p>研究Gの設立目的は、白浜浦地域の養殖漁業、採介藻漁業で採れた貝藻類と漁協自営定置、カゴ等の漁船漁業で漁獲された魚介類のうち、主に規格外品、未利用品、市場で低価格扱いの魚類を有効利用し、将来、女性部活動として加工品等の販売ができる体制・基盤づくりとした。併せて、地域の高齢者や女性部未加入者を対象に、活動を通して調理方法の伝授や試食による魚食普及・地域活性化と、市内外のイベント等を通じた魚食普及も目的とした。</p> <p>平成27年年度に引き続き平成28年度は、料理、加工品の試作、魚食普及活動、イベント等への出店を行った。</p>		

<p>活動内容 (結果及び 考察)</p>	<p>【実施状況】</p> <p>◆加工品の試作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白浜浦地域で助成対象外を含め 13 回の料理実習を開催した。 ・白浜浦地域で盛んに養殖されているカキを使用したカキの佃煮を試作した。 ・岩手大学、北里大学と連携し、ドンコの練り製品を試作した。 ・岩手大学が主催した水産加工研修会に参加し、魚類、貝類を原料とした魚麵の試作を行った。 <p>◆魚食普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白浜浦地域の女性部未加入者や高齢者等を対象として調理方法伝授や加工品等の試食を通じて魚食普及と地域住民の交流を図った。 ・特に白浜浦地域も住民の高齢化、漁業の廃業が進み、高齢者宅等は地域水産物を食す機会も減少している。このことから、女性部の魚食普及活動による料理を提供し、住民交流が図られることによる地域活性化の一助とした。 ・漁業体験学習参加者に浜料理を提供し、魚食普及を通じた後継者育成のための交流を図った。 ・料理の調理および試食による交流では、白浜浦地域の震災後のコミュニティの現状を調査している岩手大学人文社会学部・杭田ゼミ（杭田准教授、ゼミ生）が定期的に参加し、魚食普及を通じた交流を図った。 <p>◆イベント等での加工品提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 5 月にイオン盛岡南「結いの市」でイベント販売を行った。 ・6 月 19 日には、釜石市栗林地域で「山と海の交流会」を実施した。 ・7 月 16 日に JR 釜石駅周辺で開催された味覚フェスティバルに出店し、加工品を販売した。 ・10 月 9 日に遠野で「山と海の交流会」を実施した。 ・10 月 22 日に山形県南陽市で開催された南陽市菊祭りに出店し、加工品を販売した。 ・平成 29 年 2 月 13 日に開催された「浜料理を通じた上閉伊地区交流会」に、ホタテガイを使用した甘酢あんかけ揚げ餃子を出品した。 ・いわて銀河プラザ（東京都）で開催された釜石市水産物 PR イベント（釜石市事業）へ岩手大学釜石サテライト指導のもと、試作したワカメの加工品の対面販売を実施した。 <p>☆開催日 平成 29 年 3 月 4 日～3 月 5 日</p> <p>☆出品加工品 「わかめの芯ちゃん（中芯の佃煮）ゴマ味」、「わかめの芯ちゃん（中芯の佃煮）ミニホタテ入り」・・・計 105 個販売</p> <p>☆本取組では、製造、パッケージ、対面販売までの一連の流れを実施。</p>
-------------------------------	--

<p>活動内容 (結果及び 考察)</p>	<p>【課題と今後の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品開発における規格外品、未利用品を利用した原材料の確保調達 <ul style="list-style-type: none"> → 原材料確保に向けた取り組みは、女性部のみで解決できる課題ではないことから、料理・加工品の開発に引き続き取り組みながら、漁協と連携して検討していく。 特に、平成 28 年度は加工品の原料となるワカメの中芯の単価が高く、原料確保に支障をきたしたため、安価で安定的に原料確保する必要がある。 ・地域外における魚食普及活動の取り組み拡大 <ul style="list-style-type: none"> → 今年度の活動から地域内のみでの魚食普及活動は、メンバーの固定化、参加者の減少等が感じられた。また、魚食普及という観点から地域外での取り組みが必要と感じられ、新たな取り組みとして、内陸部の農協女性部等を対象とした料理を通じた交流・連携を行い、お互いの地域特産品を理解できたことから、今後は、お互いの特産品を組み合わせでの商品開発を検討しながら、魚食普及活動を拡大させる。 ・加工品製造に係る場所の確保および各種許可取得 <ul style="list-style-type: none"> → 白浜浦地域内の施設は、現状では加工品製造に係る食品営業許可の取得は難しいことから、引き続きイベント等での臨時営業許可による出店、試験販売を継続しながら、漁協、県と連携し情報収集を行う。 <p>【今年度成果】</p> <p>魚食普及活動で内陸部や農業などの異業種との連携交流に取り組んだことから、更なる連携交流の意欲が高まっている。</p> <p>また、お互いの特産品を持ち寄り、異業種間交流で食したことによって、水産物と農産物を合わせた加工品作りの構想が高まりつつある。</p>
-------------------------------	--

【平成28年度活動記録】

活動日	参加人数	活動内容
H28/5/7	3	第2回検討会議
5/17	2	第3回検討会議(産業経済交流課との打ち合わせ)
5/28	3	産業経済交流課主催のイベント出店(盛岡南イオン結の市)
6/4	3	第4回検討会議
6/19	24	山と海の交流会(栗林集落センター)
6/26	3	第5回検討会議
7/2	3	釜石市「味覚フェスティバル」出店に向けた試作品製造(白浜浦番屋)
7/16	8	釜石市「味覚フェスティバル」出店(シープラザ遊)
8/26	7	イベントへの出店(尾崎百年学舎と共同出店)(釜石市内)
9/7	3	第6回検討会議(岩手大学・北里大学との打ち合わせ。ドンコかまぼこ)
9/18	8	試作品製作(白浜浦番屋、カキ佃煮等)
9/19	8	試作品製作(嬉石センター、カキ佃煮等)
9/26	3	第7回検討会
10/9	24	山と海の交流会(遠野福祉センター)
10/22	3	南陽市菊祭り出店(山形県南陽市)
11/14	3	第8回検討会
11/20	7	北里大学との共同調理実習(白浜浦番屋、どんこのさつま揚げ)
11/26	1	いわてめぐだまりフェア出店対応(クロステラス盛岡)
11/29	8	水産加工研修会(岩手大学釜石サテライト)
12/13	4	水産加工研修会(岩手大学釜石サテライト)
H29/1/18	3	水産加工研修会(岩手大学釜石サテライト)
1/29	3	試作品製作(白浜浦番屋、ホタテ入魚麺水餃子)
2/11	6	漁業体験学習対応(白浜浦番屋)
3/3-5	3	イベント販売対応(東京銀河プラザ)
3/6	4	新商品開発検討会(岩手大学釜石サテライト)

延べ参加人数 146 (5/7以降)

※平成28年4月中に実施活動は事業対象外

【料理実習の素材および料理】

活動日	項目	素材	料理
H28/4/24	第1回料理実習	ワカメ ワカメ	ワカメ入り蒸しパン、パウンドケーキ 中芯の佃煮
4/30	第2回料理実習	ワカメ ワカメ	中芯の佃煮 塩わかめ
6/19	第3回料理実習	ホタテ 鮭 鮭	ホタテのスープ 鮭の麻婆豆腐 鮭のちゃんちゃん焼き
7/2	第4回料理実習	ウニ ホタテ	ウニご飯 ホタテ串焼き
7/16	第5回料理実習	ウニ ホタテ	ウニご飯 ホタテ串焼き
9/18-19	第6回料理実習	カキ ワカメ	カキの佃煮 中芯の佃煮
10/9	第7回料理実習	ホタテ カキ シウリ貝	ホタテご飯 カキの佃煮 すいとん(シウリ出汁)
11/20	第8回料理実習	ドンコ	さつま揚げ
11/29、 12/13、H29/1/18	第9回、第10回、 第11回料理実習	魚類、ホタテ	魚麺
1/29	第12回料理実習	ホタテ	ホタテ入魚麺水餃子
H29/2/11	第13回料理実習	ドンコ カレイ・スイ ホタテ・アイナメ ワカメ シウリ貝 カスベ カキ	ドンコ汁 煮付け 刺身 和え物 チーズ焼き 唐揚げ カキの佃煮

※第1回、第2回料理実習は事業対象外

活動内容
(結果及び
考察)

【試作品作成】



活動内容
(結果及び
考察)



【加工品作成】



活動内容
(結果及び
考察)

【イベント ‘結いの市’】



【イベント ‘山と海の交流 1’】



【イベント ‘味覚フェスティバル’】



活動内容
(結果及び
考察)

【イベント ‘山と海の交流 2’】



【イベント ‘浜料理交流会’】



【イベント ‘銀河プラザ’】



活動内容
(結果及び
考察)



課 題 名	女性部による未利用資源活用研究事業		
実 施 主 体	小本浜漁協女性部生活改善クラブ	構成員数 (うち参加者数)	15名 (15名)
総 事 業 費	132,285円	うち基金助成額	132,285円
事業の目的	未利用資源を用いた商品開発及び試験販売		
材料及び方法 (又は実施時期、場所、参加者等)	<p>1.商品開発</p> <p>(1) 試作会</p> <p>第1回 5月29日 小本浜漁協調理室 漁協女性部生活改善クラブ員等</p> <p>第2回 7月12日 小本生活改善センター 漁協女性部生活改善クラブ員等</p> <p>第3回 10月13、14日 小本浜漁協調理室 漁協女性部生活改善クラブ員等</p> <p>第4回 11月1日 小本浜漁協調理室 漁協女性部生活改善クラブ員等</p> <p>第5回 11月9日 小本浜漁協調理室 漁協女性部生活改善クラブ員等</p> <p>第6回 11月16日 小本浜漁協調理室 漁協女性部生活改善クラブ員等</p> <p>第7回 11月24日 小本浜漁協調理室 漁協女性部生活改善クラブ員等</p> <p>(2) 料理教室</p> <p>第1回 6月22日 小本生活改善センター調理実習室 講師 道の駅いわいずみレストラン岩泉 調理長 漁協女性部員等</p> <p>第2回 8月19日 小本生活改善センター調理実習室 講師 盛岡グランドホテル 和食調理長 漁協女性部員等</p> <p>2.試作品の試験販売</p> <p>第1回 7月17日 第2回小本浜実験市 小本漁港 漁協女性部等</p> <p>第2回 12月11日 第3回小本浜実験市 小本漁港 漁協女性部等</p>		
活動内容 (結果及び考察)	<p>川鮭等の魚介類や海藻類などの未利用、低利用資源を用いたオリジナル商品、メニューを試作会や料理教室でプロの指導を受けながら開発に取り組んだ。</p> <p>また、地元イベントに参加し、消費者の開発品に対する評価を調査した。</p> <p>1. 商品開発</p> <p>小本の食材（未利用・低利用資源）を活用した小本浜のオリジナル商品・メニューの開発を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性部員による試作会の実施 7回 ・プロの料理人によるメニュー開発及び調理技術の指導講習会 2回 <p>2. 開発品の試験販売</p> <p>集客が見込まれる場所での試験販売を行い、試作品の改良点や開発の方向性に関するヒントを収集した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験販売 2回 		

【 第1回試作会 】

小本産直施設のメニュー開発のため、漁協女性部と試作会（1回目）を実施したので資料を添えて報告します。なお、今年度は特に食堂メニューを中心に開発し、併せてテイクアウト商品もメニュー品をアレンジしたものを開発する予定です。

○実施日 平成28年5月29日（日） 9:00～13:00

○場 所 小本浜漁協（調理室）

○参加者 女性部 工藤洋子、山本フサ子 役場 佐藤復興支援員

○試作内容

試作品1 めかぶうどん（ペースト、粉末）

試作品2 ミックス海藻マリネ

試作品3 鮭ん坊、浜っ子あげのかつサンド

○まとめ（所感）

試作品1

めかぶうどんはめかぶ粉末を作るまでが専用の機器類が必要なことから難しいと思った。ペーストの方が今ある機器類で容易にできると感じた。ただ、ペーストの添加量を昨年試作した量の倍以上（対小麦10%→30%）も入れたが色、香り、食感とも特徴があまりでなかった。もっと添加量を増やすべきか、単純にカットめかぶをうどんにトッピングした方が良いかもしれない。両方作って比較してみる。

試作品2

ミックス海藻マリネについては海藻サラダのベースとして、野菜や魚介類に混ぜても新たなメニューができると思った。

試作品3

鮭ん坊、浜っ子あげのかつサンドは試食した者皆良いとの評価。テイクアウト商品に向いていると思った。

活動内容
(結果及び
考察)



鮭ん坊、浜っ子あげを揚げる



パンに挟んで完成（鮭ん坊、浜っ子あげのかつサンド）

<p>活動内容 (結果及び 考察)</p>	<p>【 第1回料理教室 】</p> <p>本年度建設予定の小本地区産直施設の開業準備として、岩手県漁業担い手育成基金より研究グループ等活動事業を導入し、提供するメニュー、商品の開発を目的に第1回目の料理教室を下記の通り実施しましたので資料を添えて報告します。</p> <p>日 時：平成28年6月22日 18：30～21：00</p> <p>場 所：小本生活改善センター（食生活実習室）</p> <p>講 師：野中 恵介さん（道の駅いわいずみ料理長）</p> <p>参加者：小本浜漁協女性部員 12名（参加者名簿参照）</p> <p>漁協 野崎課長</p> <p>宮古水産振興センター 高木主査</p> <p>役場 武田主任、佐藤復興支援員 合計 16名</p> <p>内 容：小本浜の食材を使用した浜料理を講師の指導頂きながら参加者で作る。 川鮭のテリーヌ、海藻ラーメン、海藻そば、シーフードカレー（4品）</p> <p>所 感：今年度は食堂メニューの開発をプロの指導を頂きながら実践的に行う予定で野中料理長には普段道の駅レストランで調理しているスープやだし汁の作り方を伝授して頂いた。</p> <p>海藻ラーメンについては細麺、中細麺等4種類、塩ダレ2種類と何パターンかの組み合わせを比較試食した（好みあり）。</p> <p>そばは道の駅の立ち食いそばコーナーで販売していたレシピそのままを提供して頂いた。それにまつも、わかめ、ふのり、めがぶ、かき揚げをのせたこのメニューはインパクトがあって面白いと感じた。</p> <p>シーフードカレーは家庭で普段食べているものとは全く違うもので、差別化はできていると思った（ただし、好みが分かれるかも）。</p> <p>川鮭のテリーヌは丁寧に手間をかけて作った洋食メニューで川鮭の臭みとかなく上品な味だった。</p> <p>直ぐにメニューとして提供できるものばかりで、今後さらにオリジナリティを加えていきたいと思えます。</p>
-------------------------------	---

活動内容
(結果及び
考察)



料理教室実習風景



ラーメン用だし汁



川鮭のテリーヌ (前もって料理長が作ってきたもの)



海藻そば



海藻ラーメン



シーフードカレー



川鮭のテリーヌ

【 第 2 回試作会 】

小本産直施設のメニュー開発のため、漁協女性部と試作会（2 回目）を実施したので資料を添えて報告します。 なお、今回は NPO ぱあとなあの料理教室と一緒に実施し講師から指導を頂きながら試作した。

○実施日 平成 2 8 年 7 月 1 2 日（火） 18 : 00 ~ 20 : 30

○場 所 小本生活改善センター（食生活自習室）

○参加者 女性部 12 名、一般 3 名 NPO 事務局 1 名 役場 1 名（佐藤） 計 17 名

○講 師 田代 久枝 さん

○試作内容

試作品 1 川鮭とゴマサバの揚げシュウマイ

試作品 2 ほやご飯

試作品 3 赤魚のお吸い

○まとめ（所感）

1. 川鮭とゴマサバの揚げシュウマイ

今回は川鮭とゴマサバを酒に浸し臭みを取り、1 : 1 で混合、ミンチし、玉ねぎ、牛乳を酢で固めたもの（チーズ風）、砂糖、塩、コショウとシンプルな味付けの具材をシュウマイの皮で包んで揚げた。魚の臭みもなく美味しいものができた。若干サバのせいかパサパサした感じがあった。普通に蒸しでもいい感じである。

2. ほやご飯

ほやご飯は炊きたてご飯に予め調味したほやを混ぜあわせるだけだが、これもまた美味しかった。ほやが新鮮でサッと湯通しした程度のためか臭みもなく食感も良かった。

3. 赤魚のお吸い

赤魚を三枚おろしにして、真ん中の厚い部分を削りにとって巻きやすくし、その削りとった部分をすり身にして挟んだものを蒸して、お吸いの具にした。味付けは塩と醤油、みりんだけだがダシをしっかりとっており、塩分は少なめでもうすく感じなかった。上品な料理である。今回のメインは川鮭とゴマサバのシュウマイであったが、ほやご飯もお吸いも産直のメニューとして直ぐに使えるものであると思った。

活動内容
(結果及び
考察)

活動内容
(結果及び
考察)



川鮭とゴマサバのシュウマイの調理



川鮭とゴマサバのシュウマイ



赤魚のお吸いの調理



赤魚のお吸い



ほやご飯の調理



ほやご飯



試作品 3 種完成



試食の様子

【 第 2 回料理教室 】

本年度建設予定の小本地区産直施設の開業準備として、岩手県漁業担い手育成基金より研究グループ等活動事業を導入し、提供するメニュー、商品の開発を目的に第 2 回目の料理教室を下記の通り実施しましたので資料を添えて報告します。

日 時：平成 2 8 年 8 月 1 9 日 18：30～21：00

場 所：小本生活改善センター（食生活実習室）

講 師：佐藤昌幸さん（盛岡グランドホテル和食料理長）

参加者：小本浜漁協女性部員 13名（参加者名簿参照）

役場 武田主任、佐藤復興支援員 他 合計 20名

内 容：今回は小本の定置漁でたくさんとれて価格も安い「ゴマサバ」を使ったメニューに特化し、料理長に 3 品レシピを提供頂き、3 班に分かれて調理した。

①鯖と豆腐のステーキ茸餡かけ

②鯖入り餃子

③さばカツカレー

活動内容
(結果及び
考察)

所 感：どの料理も特に難しい調理もなく美味しかった。

特にさばカツカレーのさばカツ（チーズと大葉を挟んだ物）はそのまま食べても非常に美味しく大好評だった。

その他にメニューについても食材等のアレンジでさらにオリジナルメニューができそうである。

プロの料理人から 2 回の料理教室で指導を頂き、食堂メニュー案のアイテムも徐々に増えており、これに季節毎の食材を組み合わせた小本浜ならではのオリジナルメニューを組み立ていきたいと思います。



漁協女性部と佐藤料理長



料理教室実習風景



さばカツ作り



鯖と豆腐のステーキ茸餡かけ



鯖入り餃子



さばカツカレー

<p>活動内容 (結果及び 考察)</p>	<p>【 第3回試作会 】</p> <p>○実施日 平成28年10月13、14日(木・金) 13:30～16:30</p> <p>○場 所 小本浜漁協調理室</p> <p>○参加者 女性部 2名、役場 1名(佐藤) 計3名</p> <p>○試作内容</p> <p>試作品1 ガーリックバター醤油</p> <p>試作品2 鮭ん坊椎茸入り</p> <p>試作品3 鮭ん坊の椎茸肉詰め(蒸し、フライ)</p> <p>試作品4 浜っ子あげ椎茸肉詰め(蒸し、フライ)</p> <p>試作品5 鮭みりん漬け(焼き)</p> <p>試作品6 鮭みりん漬け(フライ)</p> <p>試作品7 鮭バーグ</p> <p>試作品8 鮭バーグカツ、鮭バーグカツサンド</p> <p>試作品9 わさび醤油ダレ改良</p> <p>○まとめ(所感)</p> <p>今回、準備を含め3日間で9種12アイテムの試作を実施した。時間の都合で細かな記録がとれなかったがある程度ベースとなるレシピづくりはできたと思われる。さらに原料、調味料の配合調整が必要と思われるが何アイテムか浜の産直メニューの一つにリストアップできそうなものもできたと思う。</p> <p>試食についても未完成な状態で行ってしまい、今後改良試作し、試食を実施できればと思う。</p> <p>○農林水産課職員の試食感想(順番はランキング形式となっています)</p> <p>1、鮭みりん漬けフライ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番人気で味がしっかりしていた印象。 ・ホットドックの生地に入れて鮭ドックでもいけるかもしれない。 <p>2、鮭ん坊しいたけの肉詰め</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しいたけの味がしっかりとしており、鮭ん坊よりもこちらが好きな人も多くいた。 ・しいたけを二つくつけてピロシキのように包めばインパクトがあるかもしれない。 ・スティック状の鮭ん坊に比べて外では食べづらいかもしれないので、ファストフードのように食べるには改良が必要かもしれない。 <p>3、鮭バーグカツサンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしかったが、鮭みりん漬けに評価が及びません。
-------------------------------	---

・たまねぎのソースが良かった(ガーリックバター醤油)。

4、浜っ子あげしいたけ肉詰め

- ・味が薄い感じがしたので、ソースやマヨネーズなどで味付けが必要。
- ・人によっては鮭ん坊しいたけの肉詰めよりもおいしいとの意見もあった。

5、鮭ハンバーグ棒

- ・食べ始めの触感は牛肉のハンバーグに近く、噛むうちに鮭の味が染み出てきた。
- ・スパイスの味などが感じられたが、揚げ過ぎたせいだと思うが、味が弱かったと思う。

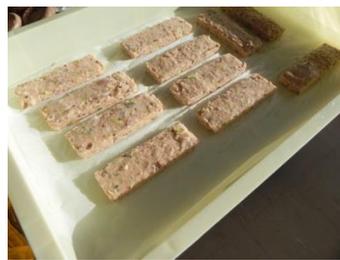
最後に、作る手間を考えると鮭みりん漬けフライが一番簡単だと思う。

また、保存するにしても漬けにする事により若干の作り置きが可能だと思う。

活動内容
(結果及び
考察)



ガーリックバター醤油ソース



鮭ん坊に椎茸を入れて型取りする



椎茸に浜っ子あげを詰める



揚げたもの(鮭ん坊詰め)



浜っ子あげ詰め(左)、鮭ん坊詰め(右)蒸し



鮭をみりん醤油調味液に漬け込む



みりん漬けフライ



鮭すり身とその他食材をよく混合する



パンに挟んだもの(バター醤油ソース付き)

【 第4回試作会 】

○実施日 平成28年11月1日(火) 13:30~16:30

○場 所 小本浜漁協調理室

○参加者 女性部 1名、役場 1名(佐藤) 計2名

○試作内容

試作品1 ゴマサバかまぼこ

試作品2 ゴマサバさつま揚げ

○まとめ(所感)

ゴマサバのかまぼことさつま揚げは以前試作したドンコ(エゾイソアイナメ)のレシピで試作した。かまぼこについてはプルンとした食感はほとんどなく、かまぼこには適さないと
思う。サバをミンチして、蒸した状態で、これにパン粉を付けて揚げたり、おでんの具材として
はいいかもしれない。さつま揚げはサバの風味もあり、食感もさつま揚げになったが
感動するほど美味しとは思わなかった。長いものを浜っ子あげより増量したがふわっと感
は少なかった。煮物には良いと思う。

活動内容
(結果及び
考察)



小本産ゴマサバ



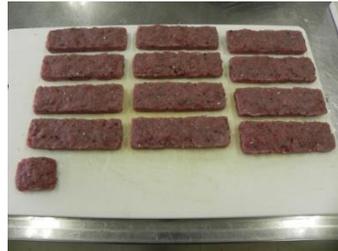
下処理(骨、皮除去)



すり身処理(ミートチョッパー使用)



型とり



坐り(熟成)



蒸し(完成)



他食材、調味料添加混合



冷凍



油で揚げる

【 第5回試作会 】

○実施日 平成28年11月9日(水) 13:30~16:30

○場 所 小本浜漁協調理室

○参加者 女性部 1名、役場 1名(佐藤) 計2名

○試作内容

試作品1 川鮭浜っ子あげ(枝豆入り)

試作品2 川鮭浜っ子あげ(チーズ入り)

試作品3 ゴマサバ浜っ子あげ(枝豆入り)

試作品4 ゴマサバ浜っ子あげ(チーズ入り)

鮭バーグ(第6回試作用)

○まとめ(所感)

浜っ子あげ4種は最初の試作としては川鮭、ゴマサバとも、また枝豆、チーズ入りとも美味しく出来た。今後何回か試作して、枝豆、チーズの大きさや配割合について適正なレシピを微調整する必要がある。

鮭バーグはそのまま単品で食べるとへんてつもなく、パン粉を付けてフライにする方が良い。

活動内容
(結果及び
考察)



鮭カットフィーレ



ミンチ (ミートチョッパー)



食材調整



食材混合、調味



型とり



冷凍



油で揚げる (鮭バーグ)



完成 (鮭バーグ)

【 第6回試作会 】

○実施日 平成28年11月16日(水) 13:30~16:30

○場 所 小本浜漁協調理室

○参加者 女性部 1名、役場 1名(佐藤) 計2名

○試作内容

試作品1 鮭浜っ子あげ(枝豆入り)の椎茸肉詰めフライ

試作品2 鮭浜っ子あげ(チーズ入り)の椎茸肉詰めフライ

試作品3 ゴマサバ浜っ子あげ(枝豆入り)の椎茸肉詰めフライ

試作品4 ゴマサバ浜っ子あげ(チーズ入り)の椎茸肉詰めフライ

試作品5 鮭ん坊の椎茸入り

試作品6 鮭バーグカツ

試作品7 鮭バーグカツサンド

○まとめ(所感)

鮭、サバ浜っ子あげ各種椎茸肉詰めは、味は良かったが、冷凍のため揚げ時間が7分以上とかかりすぎた。餡の割合等改善の余地がある。

鮭ん坊の椎茸入りは前回試作の倍の添加量にし、風味が強くなったが、椎茸が先に焦げてしまい味が落ちることから若干量の調整しなければならない。基本的に椎茸を入れると甘みやふわとした食感が出て美味しかった。

鮭バーグカツ、カツサンドとも魚嫌いでも食べられるくらい生臭みもなく美味しかった。

活動内容
(結果及び
考察)



冷凍鮭ん坊を解凍する



椎茸のみじん切りを混合する



冷凍品(椎茸入り右・無し左)



鮭バーガー一旦冷凍してから衣を付ける



鮭バーグカツ(冷凍)



パンにバター醤油ソースを付け挟む

【 第7回試作会 】

○実施日 平成28年11月24日(木) 13:30~16:30

○場 所 小本浜漁協調理室

○参加者 女性部 1名、役場 1名(佐藤) 計2名

○試作内容

試作品1 川鮭みりん漬け(改良)

○まとめ(所感)

川鮭のみりん漬けについて前回甘さが少し強かったため、糖分を若干抑え、さらに臭みを抑えるため日本酒でしめた。

一晩漬けたものは味がうすかった。その後数日おいて冷凍したものを試食したら味の濃さはちょうど良かった。(調味の味は良かったが冷凍1年物の川鮭で今ひとつ)

このことから調味液全体の濃度を上げて、添加量を抑えた方が時間的にもコスト的にも良いと思う。

活動内容
(結果及び
考察)



解凍した川鮭



三枚おろし



切り身



みりん漬調味液づくり



漬け込み(川鮭)



漬け上がり



焼き上げ

【 第3回小本浜実験市 】

○実施日 平成28年12月11日（日）

活動内容
(結果及び
考察)



課 題 名	マボヤ人工採苗技術導入試験		
実 施 主 体	船越ほや養殖研究グループ	構成員数 (うち参加者数)	6名 (6名)
総事業費	406,836円	うち基金助成額	350,000円
事業の目的	船越地区でマボヤ人工採苗技術を確立して安全な種苗を確保する。		
材料及び方法 (又は実施時期、場所、参加者等)	<p>【時 期】平成29年1月6日から平成29年1月27日 【場 所】船越湾漁業協同組合(山ノ内地区作業保管施設) 【参加者】6名</p> <p>1、採苗器は次の3種類を使用した。 (1) 新パームロープ(9mm)1,200m※今回購入したもの。 (2) 古パームロープ(9mm)1,200m ※昨年付着が悪かったものを再利用 (3) カキ殻(20枚)32連</p> <p>2、親ホヤは約200kg(4年物)準備し、下記により産卵を誘発させ、受精卵を収容した。 (1) 海水(紫外線殺菌海水・調温なし・エアレーション使用)掛け流しの産卵用水槽(3基)に親ホヤを収容し、常時照明を6日間点灯して産卵を抑制した。 (2) 採卵予定日の前日に止水(エアレーション使用)・調温11℃に設定(10.5℃±0.5℃)及び室内は消灯し、産卵用水槽に蓋(厚手のシート)をして水槽内の光を遮断した。 (3) 翌朝、産卵用水槽の蓋(厚手のシート)を外して光を当て産卵の誘発を行った。 (4) 産卵用水槽内に放卵・放精させ、受精卵を採取・計数を行い、採苗用水槽(3基)に収容した。</p> <p>3、採苗用水槽は止水(エアレーション使用)・調温11℃に設定(10.5℃±0.5℃)及び採苗用水槽に蓋(厚手のシート)をして光を遮断し、1週間かけて幼生を採苗器に付着させた。</p> <p>4、付着を確認後、微通水(紫外線殺菌海水・調温なし・エアレーション使用)で3日間掛け流しをした。微通水開始から3日後には通水量を増加し、その1週間後には採苗器の沖出しをして各々の養殖施設に垂下した。</p>		
活動内容 (結果及び考察)	<p>1、平成29年1月6日に船越湾産の親ホヤ(4年物)を採取して、産卵用水槽(3基)に収容し、海水掛け流し(紫外線殺菌海水・調温なし・エアレーション使用)、常時照明を6日間点灯して産卵抑制を開始した。</p> <p>2、平成29年1月12日の午後に止水(エアレーション使用)・調温11℃に設定(10.5℃±0.5℃)及び室内は消灯し、産卵用水槽に蓋(厚手のシート)をして水槽内の光を遮断した。</p> <p>3、平成29年1月13日の朝、受精卵採取作業を円滑にするために産卵用水槽の蓋(厚手のシート)を意図的に20分の時間差をつけて1基ずつ外して産卵誘発を試みた。No.1の水槽から放卵・放精が始まり、No.2、No.3と概ね20分間隔で放卵・放精が始まった。</p>		

意図的に時間差をつけたことで時間に余裕をもって受精卵を採取することが出来た。採取した受精卵は計数を行い、採苗用水槽（3基）に収容し、止水（エアレーション使用）・調温 11℃に設定（10.5℃±0.5℃）及び採苗用水槽に蓋（厚手のシート）をして光を遮断した。

①産卵誘発作業及び受精卵採取個数

産卵用水槽	No.1	No.2	No.3
点灯時間 （厚手シート（蓋）を外した時間）	06：00	06：20	06：40
産卵開始確認時間	10：20	10：40	11：10
受精卵採取個数	872 万粒	772 万粒	883 万粒

②受精卵収容状況

採苗用水槽	使用した採苗器	受精卵収容個数
No.1	新パームロープ（9mm）400m 古パームロープ（9mm）400m カキ殻（20枚）11連	825 万粒
No.2	新パームロープ（9mm）400m 古パームロープ（9mm）400m カキ殻（20枚）11連	877 万粒
No.3	新パームロープ（9mm）400m 古パームロープ（9mm）400m カキ殻（20枚）11連	825 万粒

活動内容
（結果及び
考察）

4、平成 29 年 1 月 20 日に付着状況を確認するため顕微鏡を用いて確認した。ホヤの付着は確認したものの、使用した顕微鏡では付着数を計数することが困難だったため後日確認することにした。付着が確認されたため、微通水（紫外線殺菌海水・調温なし・エアレーション使用）を開始し、3日後の 1 月 23 日に通水量を増加した。

5、平成 29 年 1 月 27 日に付着状況を再度確認し、付着が良好であったため採苗器を取り上げ沖出しした。採苗器はムラサキイガイの付着を防ぐため水深 14m に垂下した。

付着調査結果

採苗用水槽	採苗器の種類	採苗器の長さ	サンプル付着数	1cm 当りの付着数	総付着数
No.1	新パームロープ	400m	18 個/15.5cm	1.16 個	46,400 個
	古パームロープ	400m	18 個/5cm	3.60 個	144,000 個
No.2	新パームロープ	400m	33 個/5cm	6.60 個	264,000 個
	古パームロープ	400m	25 個/7cm	3.57 個	142,800 個
No.3	新パームロープ	400m	12 個/4cm	1.16 個	120,000 個
	古パームロープ	400m	34 個/6cm	3.60 個	226,400 個
合計	新パームロープ	1,200m		3.59 個	430,400 個
	古パームロープ	1,200m		4.28 個	513,200 個

【平成28年度研究グループ等活動事業（研究実践活動）マボヤ人口採苗技術導入試験】

NO. 1

活動内容
(結果及び
考察)



H29. 1. 6親ホヤ収容作業（親ホヤ約200kg使用）



親ホヤを選別し、籠に立てて並べた。



産卵用水槽（3基）に収容した。



H29. 1. 12 まで室内の照明を昼夜点灯し、
産卵抑制を行った。



紫外線殺菌海水で通水開始（掛け流し）
エアレーション使用、調温なし。

活動内容
(結果及び
考察)



H29. 1. 12 午後（日没前）に室内の照明を消灯し、産卵誘発設定を行った。



止水（エアレーション使用）
調温 11℃（10.5℃±0.5℃）
厚手のシートで蓋をし、光を遮断した。



H29. 1. 13 受精卵採取作業を円滑にするため水槽の蓋を意図的に 20 分の時間差をつけて 1 基ずつ外して産卵誘発を試みた。



産卵用水槽 NO. 1 AM6:00 に蓋を外す
産卵用水槽 NO. 2 AM6:20 に蓋を外す
産卵用水槽 NO. 3 AM6:40 に蓋を外す



採苗用水槽（3 基）に採苗器を収容した。
パームロープが浮かないようにカキ殻で沈める。（カキ殻も採苗器として使用）



産卵用水槽 NO. 1 は AM10:20 に、NO. 2 の水槽は AM10:40 頃、NO. 3 の水槽は AM11:10 頃に放卵・放精が始まった。

活動内容
(結果及び
考察)



時間差で受精卵を採取したため、余裕をもって作業をすることが出来た。



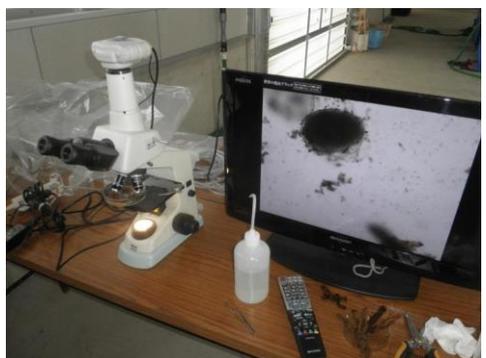
受精卵が入った水 10ℓ中 (1ml/10,000ml) に何個受精卵があるか計数した。



計数した受精卵を採苗用水槽 (3基) に收容した。止水 (エアレーション使用)、調温 11℃ (10.5℃±0.5℃)、蓋をして光を遮断した。



採苗用水槽 NO.1 に受精卵を 825 万個收容した。採苗用水槽 NO.2 に受精卵を 877 万個收容した。採苗用水槽 NO.3 に受精卵を 825 万個收容した。



H29.1.20 に付着状況を確認したものの、用意した顕微鏡では計数が困難だったため、後日確認することにした。



付着が確認されたため、微通水 (紫外線殺菌海水・調温なし・エアレーション使用) を開始し、3日後のH29.1.23に通水量を増加した。



H29. 1. 27 に採苗器の種類毎に付着状況を確認した。(カキ殻を除く)



付着状況が良好だったため、採苗器を取り上げて各々の養殖施設に垂下した。(沖出し)

活動内容
(結果及び
考察)



採苗器はムラサキガイの付着を防ぐため、水深14mに垂下した。

課 題 名	アワビ資源有効活用調査（標識放流）		
実 施 主 体	玉川浜漁業研究会	構成員数 (うち参加者数)	8名 (8名)
総 事 業 費	85,292円円	うち基金助成額	85,292円
事業の目的	標識放流により前浜のアワビの漁獲率、資源量を把握し、資源の有効利用に活用する		
材料及び方法 (又は実施時期、場所、参加者等)	<p>【実施時期】 平成28年10月～平成29年2月</p> <p>【場 所】 玉川浜地先漁場</p> <p>【標識材料】 ダイモテープ、ビニールタイ</p> <p>【方 法】 平成28年10月20日に、玉川浜漁協のアワビ主要漁場である「ひらどこ」漁場から漁獲対象サイズのアワビ112個を採取し、標識を装着して同漁場へ放流した。漁期中に漁獲された標識アワビの個数から、漁獲率を求め、得られた漁獲率と今年のアワビの漁獲量から漁獲対象アワビの初期資源量を求めた</p>		
活動内容 (結果及び考察)	<p>漁期中に再捕された標識アワビの総数は61個で、漁獲率は54.5%であった。漁獲対象アワビの初期資源量は36,503個、4,485kgと推定された。</p> <p>調査結果は2月14日に報告会を開催して組合員に周知した。</p> <p>詳細については、以下のとおり。</p> <p style="text-align: center;">【 平成28年度 アワビ資源量調査結果 】</p> <p style="text-align: right;">玉川浜漁業研究会</p> <p>1 目的 標識放流により前浜のアワビの漁獲率、資源量を把握し、資源の有効利用に活用する。</p> <p>2 方法 平成28年10月20日にアワビの主要漁場の「ひらどこ漁場」(図1)から漁獲対象サイズのアワビ112個を採取し、標識を装着して同漁場へ放流した。標識は青のダイモテープにH28と刻印したもので、アワビの呼水口にビニールタイで固定した(写真1)。放流個体の平均殻長は100.7mm、平均重量は136.5gであった(図2)。放流は、ひらどこ漁場内にできるだけ分散するよう注意して船上から行った。11、12月の漁期中に再捕された標識個体の数から漁獲率を求め、得られた漁獲率と今年のアワビの漁獲量から漁獲対象アワビの初期資源量を推定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁獲率＝アワビの再捕個数÷放流数×100 ・ 初期資源量＝漁獲量÷漁獲率 		

活動内容
(結果及び
考察)



図1 調査漁場



写真1 標識装着状況

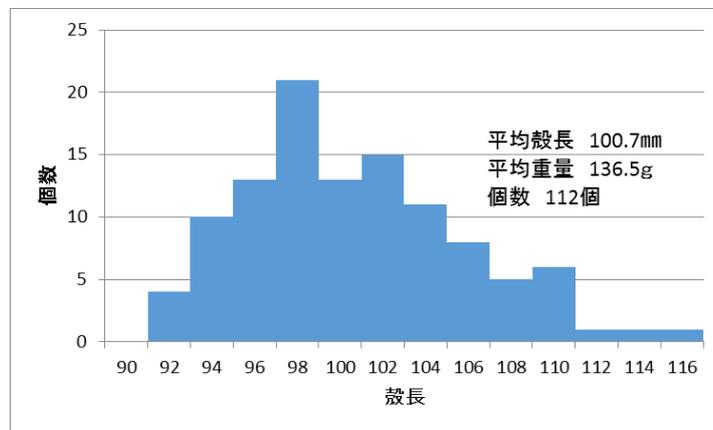


図2 標識アワビの殻長組成

3 結果と考察

表2に本年度のアワビの漁獲量と標識個体の再捕状況を示した。今漁期は11月5日から12月21日まで合計7回の口開けがあり、標識個体は口開け1回あたり最高で25個再捕された。漁期中に再捕された標識個体の総数は61個で、漁獲率は54.5%であった。

表3に資源量の推定値を示した。漁獲量と漁獲率から初期資源量は36,503個、4,485kgと推定された。

表2 アワビの漁獲量と標識個体再捕状況 (1号品、2号品、3号品込み)

	11/5	11/19	11/20	12/8	12/13	12/20	12/21	合計
漁獲量 (kg)	764.4	538.6	307.1	210.3	177.4	261.4	185.1	2,444.3
標識個体	18	25	1	11	0	5	1	61

表3 漁獲対象アワビの初期資源量の推定

	漁獲量 (kg)	1個あたり重量 (g)	推定漁獲個数	初期資源量 (個)	初期資源量 (kg)
1号品	1,879.2	136.3	13,787	25,297	3,448
2号品	90.4	136.3	663	1,217	166
3号品	474.7	87.2	5,444	9,989	871
	2,444.3	—	19,894	36,503	4,485

*1個あたり重量は、混獲率調査データを使用。1号品と2号品と同じ重量と仮定。

表4に県内他地区のアワビの漁獲率を示した。今回の調査で得られた玉川浜漁協の漁獲率は54.5%であり、玉川浜漁協と同様に素潜り漁が行われている宿戸と比べても高い値であった。これが玉川浜漁協の通常の漁獲率なのかは、今回の調査結果のみでは判断できないが、漁獲率が他地区と比べて高かった理由としては、①標識個体の分布に偏りがあった、②操業場所に偏りがあった、③標識が目立つため発見率が高かったなどが考えられる。

次年度は、放流場所や水揚げ集計の方法等の見直しを行い、より正確なデータが得られるよう工夫するとともに、今後もデータを蓄積して資源の有効利用に役立てていきたい。

活動内容
(結果及び
考察)

表4 他地区のアワビの漁獲率 (%)

	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1	漁法
宿戸	—	—	—	39.6	素潜り
土釜	25.5	25.5	24.5	15.3	
前浜	32.2	20.5	29.0	12.6	
大浜・大島	—	—	14.5	18.7	
吉浜	12.8	27.3	13.3	14.3	カギ獲り
唐丹	21.8	33.0	8.3	—	

岩手県水産技術センター年報 より

4 その他

(1) ヤセアワビ (3号品) について

玉川浜漁協では、極端に痩せたアワビ (=ヤセアワビ) は3号品として漁業者の持ち帰り扱いとされ、水揚しても漁業者の収入とならない。そこで、ヤセアワビの活用策として、次の試験を実施した。

ア 再放流試験

水揚げされたヤセアワビを再放流した場合、身入が回復して次年度再び漁獲されるのか確認するため、12月8日に漁獲されたヤセアワビのうち50個に標識（H28と刻印した黒のダイモテープ）を装着して漁港内に放流した（表5）。次年度の口開けで放流したヤセアワビの漁獲状況を調査する予定である。

表5 港内に放流したヤセアワビ

放流年月日	個数	平均殻長 (mm)	平均重量 (g)	肥満度
H28.12.8	50	96.1	87.2	0.098

* 肥満度 = 重量 (g) ÷ 殻長 (cm) ³

イ 飼育試験

ヤセアワビに餌を十分に与えることで、身入を回復できるのか確認するため、12月20日に漁獲されたヤセアワビのうち11個体を栽培漁業協会種市事業所の陸上水槽で生コンブ、乾燥コンブを与えて飼育した。

2月1日に確認したところ、飼育中の11個体のうち4個体のへい死が確認され、生残率は64%であった（表6）。生き残った7個体のうち3個体は極端に筋肉部が縮小し、そのうちの1個体は触ったときに身がかすかに動く程度まで弱っていた。

12月20日と2月1日の肥満度を比較すると、ほとんど変わらない個体がある一方、飼育開始時より肥満度が高い個体もあり、ヤセアワビには餌を与えて肥満度が回復するものと、しないものがあるものと考えられた（図3）。

表6 ヤセアワビの飼育結果

年月日	平均殻長 (mm)	平均重量 (g)	肥満度			個数	生存率
			最大	最小	平均		
H28.12.20	96.2	93.1	0.133	0.082	0.102	11	—
H29.2.1	98.9	116.2	0.144	0.084	0.117	7	64%

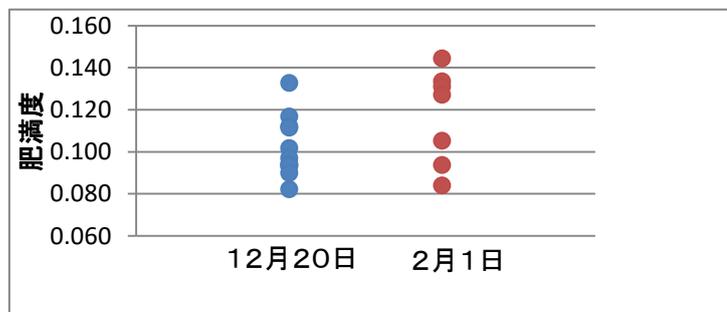


図3 肥満度の比較

活動内容
(結果及び
考察)

活動内容
(結果及び
考察)



課 題 名	久慈湾でのマボヤの採苗・養殖試験																				
実 施 主 体	大尻漁業研究会	構成員数 (うち参加者数)	43名 (15名)																		
総事業費	382,389円	うち基金助成額	350,000円																		
事業の目的	久慈市大尻地区の地先はこれまで外洋に面しており、波浪等が高く貝類等の養殖ができなかったが、港口防波堤の整備が今後進み、静穏域が発生し、貝類の養殖可能となることから、今回、マボヤの採苗及び養殖試験を行ない、将来、漁業権取得に向けた知見を得るものである。																				
材料及び方法 (又は実施時期、場所、参加者等)	<p>1 マボヤ養殖試験 (海上)</p> <p>(1) 試験実施時期 平成28年4月1日～平成29年3月6日</p> <p>(2) 試験実施場所 久慈市長内町大尻地先 養殖施設 (100m 2台)</p> <p>(3) 試験内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>内容</th> <th>結 果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28 6/28</td> <td>保苗中の種苗の確認</td> <td>前年に採苗し、試験養殖施設に保苗中の種苗(600m:採苗器12枠×50m/枠)の状況を確認した。種苗の付着状況は良好。</td> </tr> <tr> <td>10/19</td> <td>保苗中の種苗の確認</td> <td>台風10号により、採苗器の約半数が流失し、残っていたのは5枠のみ。 養殖施設は、大量に付着したシュウリで沈下。採苗器も沈下して海底に接したものと思われ、種苗の8～9割が消失していた。 採苗器を回収し、大尻漁港内に垂下した。</td> </tr> <tr> <td>11/20</td> <td>種苗の巻き込み</td> <td>大尻漁港内に保苗していた種苗を養殖用垂下ロープに巻き込み、試験養殖施設に垂下した。 垂下連 7m×14本</td> </tr> <tr> <td>12/26</td> <td>巻き込み後の確認</td> <td>巻き込み後のホヤの状況を確認したが、特に変化は認められなかった。</td> </tr> <tr> <td>H29 3/6</td> <td>生育状況の確認</td> <td>垂下連の一部を引き上げてホヤの生育を確認したが、ホヤは確認できなかった。</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 マボヤ採苗試験 (陸上)</p> <p>(1) 試験実施時期 平成28年12月13日～平成29年3月6日</p> <p>(2) 試験実施場所 久慈市長内町大尻漁港及び地先</p> <p>(3) 試験内容</p>			月日	内容	結 果	H28 6/28	保苗中の種苗の確認	前年に採苗し、試験養殖施設に保苗中の種苗(600m:採苗器12枠×50m/枠)の状況を確認した。種苗の付着状況は良好。	10/19	保苗中の種苗の確認	台風10号により、採苗器の約半数が流失し、残っていたのは5枠のみ。 養殖施設は、大量に付着したシュウリで沈下。採苗器も沈下して海底に接したものと思われ、種苗の8～9割が消失していた。 採苗器を回収し、大尻漁港内に垂下した。	11/20	種苗の巻き込み	大尻漁港内に保苗していた種苗を養殖用垂下ロープに巻き込み、試験養殖施設に垂下した。 垂下連 7m×14本	12/26	巻き込み後の確認	巻き込み後のホヤの状況を確認したが、特に変化は認められなかった。	H29 3/6	生育状況の確認	垂下連の一部を引き上げてホヤの生育を確認したが、ホヤは確認できなかった。
月日	内容	結 果																			
H28 6/28	保苗中の種苗の確認	前年に採苗し、試験養殖施設に保苗中の種苗(600m:採苗器12枠×50m/枠)の状況を確認した。種苗の付着状況は良好。																			
10/19	保苗中の種苗の確認	台風10号により、採苗器の約半数が流失し、残っていたのは5枠のみ。 養殖施設は、大量に付着したシュウリで沈下。採苗器も沈下して海底に接したものと思われ、種苗の8～9割が消失していた。 採苗器を回収し、大尻漁港内に垂下した。																			
11/20	種苗の巻き込み	大尻漁港内に保苗していた種苗を養殖用垂下ロープに巻き込み、試験養殖施設に垂下した。 垂下連 7m×14本																			
12/26	巻き込み後の確認	巻き込み後のホヤの状況を確認したが、特に変化は認められなかった。																			
H29 3/6	生育状況の確認	垂下連の一部を引き上げてホヤの生育を確認したが、ホヤは確認できなかった。																			

材料及び方法 (又は実施時期、場所、参加者等)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>内容</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28 12/13</td> <td>親ホヤ収容</td> <td>大尻地先から親ホヤ 126 個を潜水で採捕し、大尻漁港内の仮設の採苗施設に収容。</td> </tr> <tr> <td>12/14 ~ 19、26</td> <td>採卵、採苗作業</td> <td>採卵数 1,650 千個 採苗m数 700m+α (採苗器 14 枠×50m/枠) + シュロ縄 1 巻き 付着密度 2 個/cm</td> </tr> <tr> <td>12/26</td> <td>沖出し</td> <td>採苗した種苗を試験養殖施設に沖出しした。 養殖施設 1 列目・・・採苗器 7 枠+シュロ縄 1 巻き 養殖施設 2 列目・・・採苗器 7 枠</td> </tr> <tr> <td>H29 3/6</td> <td>種苗の生育状況の確認</td> <td>採苗器のシュロ縄糸の一部を切断して、顕微鏡観察したが、稚ホヤの付着は観察されなかった。また、全体的に採苗器が汚れて(ノロ付着等)いたので、採苗器を上下に振動させて泥等を落とすこととした。</td> </tr> </tbody> </table>	月日	内容	結果	H28 12/13	親ホヤ収容	大尻地先から親ホヤ 126 個を潜水で採捕し、大尻漁港内の仮設の採苗施設に収容。	12/14 ~ 19、26	採卵、採苗作業	採卵数 1,650 千個 採苗m数 700m+ α (採苗器 14 枠×50m/枠) + シュロ縄 1 巻き 付着密度 2 個/cm	12/26	沖出し	採苗した種苗を試験養殖施設に沖出しした。 養殖施設 1 列目・・・採苗器 7 枠+シュロ縄 1 巻き 養殖施設 2 列目・・・採苗器 7 枠	H29 3/6	種苗の生育状況の確認	採苗器のシュロ縄糸の一部を切断して、顕微鏡観察したが、稚ホヤの付着は観察されなかった。また、全体的に採苗器が汚れて(ノロ付着等)いたので、採苗器を上下に振動させて泥等を落とすこととした。
	月日	内容	結果													
	H28 12/13	親ホヤ収容	大尻地先から親ホヤ 126 個を潜水で採捕し、大尻漁港内の仮設の採苗施設に収容。													
	12/14 ~ 19、26	採卵、採苗作業	採卵数 1,650 千個 採苗m数 700m+ α (採苗器 14 枠×50m/枠) + シュロ縄 1 巻き 付着密度 2 個/cm													
	12/26	沖出し	採苗した種苗を試験養殖施設に沖出しした。 養殖施設 1 列目・・・採苗器 7 枠+シュロ縄 1 巻き 養殖施設 2 列目・・・採苗器 7 枠													
H29 3/6	種苗の生育状況の確認	採苗器のシュロ縄糸の一部を切断して、顕微鏡観察したが、稚ホヤの付着は観察されなかった。また、全体的に採苗器が汚れて(ノロ付着等)いたので、採苗器を上下に振動させて泥等を落とすこととした。														
活動内容 (結果及び考察)	<p>1 マボヤ養殖試験 (海上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月以降の観察で、保苗していた種苗の消失要因としては、採苗器が付着物(シュウリ)の重さ等で海底に沈下し死滅した他、海底に沈下しない部分も、消失していたことと、他の地区(普代村、野田村)でも消失していたことから、海況、餌料プランクトン等の影響が考えられた。 ・次年度以降の養殖試験用のホヤ種苗の確保が必要である。 															
	<p>2 マボヤ採苗試験 (陸上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、仮設の簡易採苗施設での採苗を試みたところ、受精卵は1,650千個と十分量を確保できたものの、付着密度は2個/cm少なく、さらに、顕微鏡下で観察したところ、付着後の発生が悪かった。要因として、仮設の簡易採苗施設で採苗したため、育水の汚れや、海水温の低下が考えられた。次年度は、採苗水槽の飼育水の泥対策(取水での布ろ過、沈殿水槽の設置)や飼育水温の低下対策(加温ヒータの導入、ブルーシート等での保温)が必要である。 <p>*指導及び協力者 県北広域振興局水産部、久慈市役所林業水産課、久慈市漁業協同組合</p>															



ホヤ勉強会



種苗巻き込み

活動内容
(結果及び
考察)



採苗



ホヤ採卵



採苗器の沖出し



シュロ縄の状況

イ 研修活動

課 題 名	定置網漁業の先進地他地区の視察研修		
実施主体	田野畑村漁業協同組合青年部	構成員数 (うち参加者数)	29名 (6名)
総事業費	338,830円	うち基金助成額	150,000円
事業の目的	基幹漁業である定置網漁業の世代交代に備えた若手漁夫のリーダー育成		
実施時期、場所、参加者等	【日 時】平成28年8月20日、21日 2日間 1泊2日 【場 所】北海道 函館市 【参加者】7名 (うち助成対象6名 役場職員1名)		
活動内容 (結果及び 考察)	<p>1 趣旨 青年部員の半数が生計の柱とする基幹漁業である定置網漁業。その定置網漁業の先進地他地区を視察し、漁網専門メーカーにて定置網のノウハウを研修、漁労技術の向上と、高齢化による世代交代に備えた次世代のリーダー育成を行う。さらに、視察で得た定置網のノウハウや漁労技術に関する伝達研修会を漁協定置網従事者を対象に実施し、漁協内での情報共有と技術普及を図る。</p> <p>2 訪問先及び研修内容</p> <p>(1) 高谷造船所 平成28年8月20日 定置網船がどのように造船されているのか研修してきました。定置網船は型枠を使い身船を造船し、ブリッジは身船が完成後取り付けます。震災以降は東北からの注文が増えているそうです。天井クレーンが2基あり秋鮭漁期までに完成できるように急ピッチで作業が進められていた。</p> <p>(2) ホクモウ函館工場 平成28年8月20日 視察当日は定置網の登り運動場の補修作業をしていました。作業場には天井からたくさんのロープが吊るしてあり、そのロープに網を吊るし、立って作業していました。立って作業することにより補修する際に力が入り、座って作業するよりも効率よく作業が進むそうです。細かい部分にまで気を配り少しでも作業効率が良くなるよう工夫しているようでした。</p> <p>(3) 伝達研修会 平成29年2月9日 漁協定置網従事者(14名)を対象に、上記研修内容の伝達研修会を実施しました。来季の秋鮭漁期前に今回研修したことを実践して、自分達の作業に合うように改善していくこととなりました。今後この研修等で学んだ技術が普及していくことを期待させる伝達研修会となりました。</p>		

【 高谷造船所 】



北海道函館市白尻町 高谷造船所



修理の為、上架されている船

活動内容
(結果及び
考察)



造船中の新造船（船首部分）



造船中の新造船（船尾部分）



船尾部分を作る際の型枠



高谷造船所から見た白尻港

【 ホクモウ函館工場 】



北海道函館市赤坂町 ホクモウ函館工場



ロープ等の資材倉庫

活動内容
(結果及び
考察)



登り運動場の修理作業



天井に吊るしてあるロープに網を固定しながらの作業



近年主流となっている結合部分



従業員が使っていた道具



修理の為に持ち込まれた網



処分される網



網が引っかからないように加工された荷台フック

【 伝達研修会 】



伝達研修会



高谷造船での研修報告



ホクモウ函館工場での研修報告



研修報告を聞く漁協定置網乗組員

活動内容
(結果及び
考察)

課 題 名	第10回全国カキ・サミット三重大会への参加		
実施主体	野田漁友会	構成員数 (うち参加者数)	6名 (4名)
総事業費	247,420円	うち基金助成額	200,000円
事業の目的	第10回全国カキ・サミット三重大会に参加し、全国各地のカキ生産者、関係者との情報交換を行い、各地での取組みを参考として、本会でのカキ養殖および販売方法の改善を図る。		
実施時期、場所、参加者等	【日 時】 平成29年3月2日(木)～4日(土) 【場 所】 三重県伊勢市 伊勢市観光文化会館等 【参加者】 野田漁友会4名(外館 尚紀、安藤 正樹、田中 定和、小谷地 勝)		
活動内容 (結果及び 考察)	<ul style="list-style-type: none"> ・カキ・サミット三重大会(シンポジウム等)に参加し、全国各地のカキ生産者、関係者との情報交換を行った。 ・カキ消費拡大イベントに参加し、各地のカキについて情報収集を行った。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>		

3 (2) 青年等交流活動事業

ア 情報交換会の開催等

課 題 名	全国漁業士連絡会議及び全国青年女性交流大会への参加		
実施主体	岩手県漁業士会	構成員数 (うち参加者数)	99名 (2名)
総事業費	106,120円	うち基金助成額	88,120円
事業の目的	全国漁業士連絡会議に参加して他県の漁業士と情報交換するとともに全国青年女性漁業者交流大会に参加した他県の優良事例を学び地域の活性化の一助とする。		
実施時期、場所、参加者等	<p>① 全国漁業士連絡会議 【日 時】平成29年2月28日 【場 所】東京都（農林水産省） 【参加者】吹切守指導漁業士</p> <p>② 全国青年女性漁業者交流大会 【日 時】平成29年3月1日～2日 【場 所】東京都（ホテルグランドアーク半蔵門） 【参加者】吹切守指導漁業士、野田邦広指導漁業士</p>		
活動内容 (結果)	<p>① 全国漁業士連絡会議 全国から24名の漁業士が参加し、意見交換が行われた。 若手漁業者（女性を含む）の育成及び活動に関する取り組みとその課題について各ブロック（東北・北海道ブロック、日本海ブロック、関東・東海ブロック、瀬戸内ブロック、九州ブロック）から報告があった。 出席した漁業士の内3割は後継者がいる又は後継者育成を図りたいと述べていたが、残りは後継者がいない等厳しい状況であった。</p> <p>② 全国青年女性漁業者交流大会 全国から39課題、兵庫県立香住高等学校海洋科学科から1題の合計40課題の発表があった。 岩手県からは綾里漁協青壮年部の佐々木淳氏が「つくる人と食べる人の新しい関係」と題して第4分科会で発表し、釜石東部漁協女性部の前川良子氏が「食からつなげる地域の絆～郷土料理と魚食普及を通じた取り組み～」と題して第5分科会で発表した。佐々木淳氏は農林水産大臣賞を前川良子氏は水産庁長官賞をそれぞれ受賞した。 今年度は、分科会毎で発表課題数が異なっていた（最少発表課題5題、最多発表課題数10題）。佐々木淳氏は発表課題数が最も多い第4分科会での受賞であった。</p>		

活動内容
(結果)

① 全国漁業士連絡会議



会場風景



会議に出席した吹切指導漁業士

② 全国青年女性漁業者交流大会



吹切指導漁業士と野田指導漁業士



岩手県から参加した漁業士



第4分科会で発表する佐々木氏



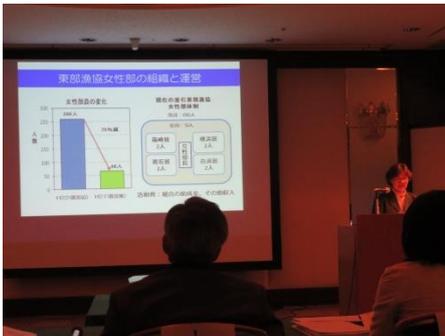
第5分科会で発表する前川氏



会場風景 (意見交換)



農林水産表彰 (佐々木氏の表彰)

課 題 名	第 22 回全国青年・女性漁業者交流大会参加		
実 施 主 体	岩手県漁協女性部連絡協議会	構成員数 (うち参加者数)	6,267 名 (5 名)
総 事 業 費	71,360 円	うち基金助成額	63,860 円
事業の目的	全国の青年・女性漁業者の日頃の研究・実践活動発表を聴講することにより、部員の知識向上を図り活動の活性化に資することを目的とする。		
実施時期、場所、参加者等	<p>【日 時】平成 29 年 3 月 1 日 (水) ～ 3 月 2 日 (木)</p> <p>【場 所】東京都千代田区隼町 1-1 ホテルグランドアーク半蔵門</p> <p>【参加者】・前 川 良 子 (実績発表者・釜石東部漁協女性部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛 合 敏 子 (県漁協女性連会長・重茂漁協女性部長) ・三 浦 紘 子 (釜石東部漁協女性部長) ・釜石東部漁協職員・岩手県信漁連職員 各 1 名 		
活動内容 (結 果)	<p>全国の青年・女性漁業者が一堂に会し、日頃の研究、実践活動の成果を発表するとともに、参加者間の交流により知識や情報を共有・進化させ水産業・漁村の発展と活性化に資することを目的に J F 全漁連の主催により開催されているもので、全国で実施している漁業および加工・販売の実践や成果、魚食普及活動の事例等、今後の本県女性部活動の事業推進に大きく役立つものであった。</p> <p>なお、本県女性部代表として活動実績発表を行った釜石東部漁協女性部は、第 5 分科会において水産庁長官賞を受賞した。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> </div>		

課 題 名	宮古市漁業者交流事業「浜コン」		
実 施 主 体	宮古市漁業就業者育成協議会	構成員数 (うち参加者数)	5 団体 (16 名)
総 事 業 費	330,748円	うち基金助成額	50,000円
事業の目的	未婚漁業者の婚活の機会として交流会を実施し、未婚漁業者の結婚対策を行い、漁業経営体維持の一助とする。		
実施時期、場所、参加者等	<p>【日 時】平成 28 年 2 月 19 日 (日) 13 時から 16 時</p> <p>【場 所】岩手県宮古市 (グリーンピア三陸みやこ)</p> <p>【参加者】宮古漁業協同組合、重茂漁業協同組合、田老町漁業協同組合 (以下、「3 漁協」という。) の男性未婚漁業者 16 名、県内の未婚女性 16 名</p>		
活動内容 (結 果)	<p>○宮古市漁業者交流事業「浜コン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・みんなで「真崎焼き」体験 ・1対1トークタイム ・フリータイム ・カップリング <p>【活動要旨】</p> <p>宮古市漁業就業者育成協議会が事務局となり、宮古地区の未婚漁業者の配偶者対策として、コミュニティーエフエム放送局の協力を得てFM放送やSNS等を活用して参加者を募り、3漁協管内の独身漁業者16名と県内の未婚女性16名を招いて開催しました。</p> <p>当日は参加者の自己紹介に続いて、田老町漁協のブランドわかめである真崎わかめの芯を使った「真崎焼き (第6回みなとオアシスSea級グルメ全国大会優勝)」を参加者がグループに分かれて調理を体験し、男女の交流を深めるとともに、ブランドわかめのPRを行うことができました。</p> <p>その後、1対1トークタイムやフリータイムを経て、気に入った異性をカードに記入してもらい発表するカップリングを実施した結果、見事1組のカップルが成立しました。また、参加者の多くは別途設定した二次会に流れて、連絡先を交換するなど一層交流を深めていました。</p> <p>会場内での参加者アンケート調査結果では、今後も同様のイベントが開催された場合には参加したいかと伺ったところ、85.2%の参加者がぜひ参加したいと回答しており、参加者が楽しみながら婚活を行えるイベントであったと思います。</p>		
			
	自己紹介をする参加者		田老町漁協 大棒女性部長より漁家の紹介

イ 地区活動研究実績発表大会

課 題 名	気仙地区漁村青壮年研修会、岩手県水産技術センター出前講座		
実 施 主 体	JF 岩手漁青連気仙支部	構成員数 (うち参加者数)	90 名 (42 名)
総 事 業 費	27,556 円	うち基金助成額	27,556 円
事業の目的	研修会を開催することにより、会員相互の連携を緊密にするとともに、水産技術の向上及び地域漁業の発展に寄与すること。		
実施時期、場所、参加者等	<p>【日 時】平成 29 年 1 月 24 日 (火) 15:00</p> <p>【場 所】岩手県漁業協同組合連合会南部支所 二階大会議室</p> <p>【参加者】岩手県水産技術センター、沿岸広域振興局水産部大船渡水産振興センター、大船渡市、陸前高田市、気仙地区の漁業協同組合、気仙地区の漁業協同組合所属会員 (青壮年部、研究グループ、研究会) 岩手県漁連</p> <p>※当初 8 月 30 日にキャピタルホテル 1000 で第 35 回気仙地区漁村青壮年女性研究グループ活動実績発表会を開催する予定であったが、当日台風 10 号が上陸し、止む無く中止した。その後も復旧の対応等により開催できなかったことから、日程を延長し、本研修会を開催した。</p>		
活動内容 (結 果)	<p>【研修内容】</p> <p>試験研究講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フリー種苗によるワカメ養殖について」 講師：岩手県水産技術センター増養殖部部长 西洞孝広 氏 ・「磯根資源について」 講師：岩手県水産技術センター増養殖部主任専門研究員 大村敏昭 氏 ・「今後の海況の見通し」 講師：岩手県水産技術センター漁業資源部専門研究員 児玉 琢哉 氏 <p>特別発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つくる人と食べる人の新しい関係」 発表者：綾里漁業協同組合青壮年部 佐々木 淳 氏 		

課 題 名	平成 28 年度九戸地区漁村青年活動実績発表大会の開催		
実 施 主 体	J F 漁青連九戸支部	構成員数 (うち参加者数)	60 名 (52 名)
総 事 業 費	65,800 円	うち基金助成額	60,000 円
事業の目的	活力ある漁村づくりに向け、組織活動の充実と改善のため情報交換を積極的に推進し、 会員相互の高揚を図る。		
実施時期、場 所、参加者等	【日 時】平成 28 年 6 月 23 日 (木) 16:00~17:20 【場 所】久慈グランドホテル 【参加者】支部会員、県、漁協関係者等 71 名		
活動内容 (結果)	<p>(1) 実績発表</p> <p>①「進め!大尻漁業研究会」(大尻漁業研究会 廻立三成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の設立の経緯、カキシングルシード養殖試験、ホヤ人工採苗・養殖試験、宮城県女川町のホヤ養殖に関する先進地視察の実施 <p>②「きれいな海は浜の女性から」(種市漁協川尻女性部 関端ケイ子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海浜清掃の実施、石鹼普及活動を実施 <p>(2) 各研究会活動報告</p> <p>①下安家漁業研究会 内野澤正勝)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カキシングルシード、ホヤ養殖試験の実施 <p>②野田漁友会 (安藤正樹)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カキシングルシード、ホヤ養殖試験の実施 <p>③久慈小型漁船研究グループ (濱欠政幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久喜小学校の磯観察、夏休み漁業体験 (定置、ウニ採り等) の支援 <p>④二子漁業研究会 (濱欠政幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カキシングルシード、ホヤ養殖試験及び朝市での試験販売の実施 <p>⑤小子内漁業研究会 (長坂照夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡市、首都圏での販路開拓活動、アワビの中間育成試験、ナマコの増殖試験等の実施 <p>⑥宿戸漁業研究会 (岡本昭雄)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アワビ。ウニの磯根資源調査、宿小、中学校の体験学習指導、サケトバ作り指導、ウニ直売会での焼きウニ等の販売実施 <p>(3) 研修</p> <p>「エラコ養殖について」 (水産技術センター首席水産業普及指導員 武蔵達也)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エラコ養殖方法、採苗時期等についての試験結果報告等 		

活動内容
(結果)



(3) 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）

課 題 名	岩手県漁業士会大船渡支部・宮城県漁業士会北部支部交流会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会大船渡支部	構成員数 (うち参加者数)	27名 (10名)
総事業費	104,900円	うち基金助成額	37,400円
事業の目的	県境に隣接する「岩手県漁業士会大船渡支部」と「宮城県漁業士会北部支部」の相互の情報交換を通じて支部員の資質向上を図るとともに、両地域の水産業の持続的な発展に役立てる。		
実施時期、場所、参加者等	<p>【日 時】平成28年8月23日</p> <p>【場 所】岩手県陸前高田市（キャピタルホテル1000）</p> <p>【参加者】岩手県漁業士会大船渡支部 10人 宮城県漁業士会北部支部 6人 岩手県漁業士会 1人、岩手県水産技術センター1人、岩手県大船渡水産振興センター 4人 宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部 5人 大船渡市農林水産部水産課 1人</p>		
活動内容 (結果)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は宮城県との協議により講演はしないことにした（昨年度は講演を行ったが意見交換時間が短くなってしまったため）。 ・また、全体会議にすると1人当りの発言時間が限られてしまうため、今年度はグループ毎の討議を試してみた。 ・話のきっかけとしてマガキ・ホタテガイ・ワカメ・マボヤ養殖、定置網漁業などの最新トピックスを資料として用意したが、活発な意見を交換するグループとそうでないグループで格差があったこと、全体的なまとまりに欠けていた面があったことなどから、よりよい方法を検討していく必要がある。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

課 題 名	青森県三八漁業士会と岩手県漁業士会久慈支部との交流会及び現地研修視察		
実 施 主 体	岩手県漁業士会久慈支部	構成員数 (うち参加者数)	21名 (11名)
総事業費	50,000円	うち基金助成額	50,000円
事業の目的	隣り合った地域で活動している青森県三八漁業士会と課題等について情報交換し、漁業技術の向上及び沿岸漁業の振興を図ることを目的として交流会を開催するものである。		
実施時期、場所、参加者等	<p>1 交流会 【日 時】平成 29 年 2 月 15 日 【場 所】久慈グランドホテル 【参加者】漁業士、県、漁協、市町村等の関係者 33 名</p> <p>2 現地視察 【日 時】平成 29 年 2 月 16 日 【場 所】ア 久慈川漁協 大川目第 2 ふ化場 イ 地下水族科学館 石油文化ホール もぐらんぴあ 【参加者】漁業士、県、漁協等の関係者 大川目第 2 ふ化場 14 名、もぐらんぴあ 10 名</p>		
活動内容 (結果)	<p>1 交流会 (1) 優良事例報告等 ア 荒海団の船出(野田村漁協 指導漁業士 小谷地 勝) イ 三八漁業士会活動状況及び管内の漁業の概要 (青森県八戸水産事務所 主幹 相坂 幸二) (2) 意見交換 荒海団の活動内容、アワビ漁、漁業後継者対策等について意見交換等を行なった。 (3) その他 次回(平成 30 年度)は青森県で開催</p> <p>2 現地研修視察 (1) 久慈川漁協 大川目第 2 ふ化場 嵯峨場長からふ化場内の案内をしてもらい、久慈管内のさけのふ化放流等について説明を受けた。 (2) 地下水族科学館 石油文化ホール もぐらんぴあ 宇部館長から館内を案内してもらい、石油備蓄基地及び水族館の概要について説明を受けた。</p>		
			
	交流会(久慈支部:吹切会長)	優良事例報告(三八漁業士会活動状況)	久慈川漁業大川目第2ふ化場視察

課 題 名	岩手県漁業士会大船渡支部研修会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構成員数 (うち参加者数)	名 (9名)
総 事 業 費	49,032円	うち基金助成額	49,032円
事業の目的	岩手県漁業士会大船渡支部内の漁業士の資質向上を図る		
実施時期、場所、参加者等	<p>【日 時】平成29年2月1日(水) 13:30~15:30</p> <p>【場 所】大船渡市(オーシャンビュー・ホテル丸森)</p> <p>【参加者】23名(漁業士9名、漁協職員3名、市職員2名、岩手県職員9名)</p>		
活動内容 (結果)	<p>研修内容</p> <p>本県の養殖業では馴染みの薄い外国人技能実習制度について理解を深めるため、以下の説明者5名を招聘して、以下の内容の説明を聞いた。</p> <p>【(一社)大日本水産会】木上正士事業部長、茅野直登係長</p> <p>【(公財)国際研修協力機構】佐藤正二副部長</p> <p>【全日本会員組合】深野大樹先任事務職員、甲斐忠行執行部員。</p> <p>(1) 外国人技能実習制度の概要</p> <p>(2) 円滑な受け入れのためのアドバイス</p> <p>(3) 外国人技能実習(養殖業職種)について</p>		
			

課 題 名	岩手県漁業士会研修会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構成員数 (うち参加者数)	90名 (本人・委任状 合計：73名)
総事業費	278,274円	うち基金助成額	100,000円
事業の目的	漁業士の資質向上		
実施時期、場所、参加者等	【日 時】 平成28年6月12日 【場 所】 メトロポリタン盛岡ニューウィング(盛岡市) 【参加者】 岩手県漁業士会、関係漁協職員、関係行政職員		
活動内容 (結果)	<p>情報交換及び研修会を開催した</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各支部の活動報告 2 講演「冬季～春季にかけての高水温について」 3 アンケート調査結果報告「漁業担い手の満足度調査結果」 4 施策紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県漁業担い手育成ビジョンの概要 ・沿岸広域振興圏の漁業担い手確保・育成ガイドラインの概要 <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>会場風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>各支部活動報告①</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>各支部活動報告②</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>各支部活動報告③</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>各支部活動報告④</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講演</p> </div> </div>		

5 平成 28 年度漁業復興担い手確保支援事業・事務事業実績

① 新規就業者(漁家子弟)確保支援事業実績

漁協名(一次受入機関)	研修生数	精算額
広田湾	5	3,459,148
越喜来	2	2,119,954
吉浜	4	3,368,652
釜石湾	3	1,189,100
釜石東部	2	1,410,000
新おおつち	3	2,353,076
三陸やまだ	3	3,384,000
重茂	13	7,849,000
宮古	6	6,396,364
小本浜	1	1,128,000
田野畑村	4	3,800,608
普代村	1	1,148,000
久慈市	3	3,439,910
種市南	1	131,600
合計	51	41,177,412

③新規就業者(未経験)確保 支援事業実績

漁協名(一次受入機関)	研修生数	精算額
広田湾	2	3,835,220
綾里	6	7,138,476
越喜来	2	2,457,150
吉浜	2	3,252,838
唐丹町	1	2,201,178
釜石湾	6	6,398,964
新おおつち	4	6,171,859
三陸やまだ	1	1,196,716
田老町	2	3,099,305
小本浜	1	441,217
田野畑村	1	550,647
野田村	2	3,961,821
久慈市	3	6,224,320
合計	33	46,929,711

5 (2) 資格等習得支援事業実績

漁協名	資格名	受講者数	事業費
綾里	小型船舶操縦士	2	264,000
	小型移動式クレーン	1	35,200
越喜来	大型自動車	3	772,200
	第二級海上特殊無線技士	6	169,200
吉浜	小型船舶操縦士	2	219,480
	アーク溶接	1	21,600
	玉掛け	1	29,260
	大型自動車、大型特殊自動車	1	355,130
	フォークリフト	1	17,920
	第二級海上特殊無線技士	2	56,400
	中型自動車	1	164,360
釜石湾	小型船舶操縦士	1	115,990
	大型自動車	2	486,000
	フォークリフト	1	30,780
釜石東部	小型船舶操縦士	1	110,480
	第二級海上特殊無線技士	2	56,400
新おおつち	小型船舶操縦士	2	139,680
	フォークリフト	3	112,080
	小型移動式クレーン	3	104,520
	玉掛け	2	54,200
船越湾	小型船舶操縦士	1	115,990
	第二級海上特殊無線技士	3	84,600
三陸やまだ	小型船舶操縦士	2	238,680
重茂	小型船舶操縦士	2	219,660
	フォークリフト	4	123,120
	玉掛け	4	97,300
	小型移動式クレーン	1	28,645
小本浜	第二級海上特殊無線技士	1	28,200
田野畑村	小型船舶操縦士	1	115,990
久慈市	フォークリフト	6	184,680
	小型船舶操縦士	5	616,200
合計		68	5,167,945

6 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程

第1章 総則

(目的)

第1条 この業務規程は、公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金（以下「基金」という。）の業務の実施について基本的な事項を定め、もって業務の適正な運営を図るものとする。

(業務運営の基本的事項)

第2条 基金は、業務の公共的重要性にかんがみ、県、市町村、漁業団体等との密接な連携のもとに、その業務を効果的に運営するものとする。

第2章 業務の種類及び業務の内容等

(事業の種類)

第3条 基金が行う事業は、次に掲げる青年等漁業者の確保育成対策に関する事業とする。

- (1) 漁業担い手確保対策事業
- (2) 漁業担い手育成対策事業
- (3) 青年等漁業者組織活動支援事業
- (4) 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業
- (5) 特別対策事業

(事業の目的、内容及び事業対象者)

第4条 前条に規定する事業の内容及び対象者は、別に定める公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則（以下「業務細則」という。）に基づくものとする。ただし、前条の第1号から第3号の事業については、必要により基金においても実施できるものとする。

(助成の額)

第5条 第3条に規定する事業に対する助成額は、別に定める業務細則に基づくものとする。

(研修先及び研修期間等)

第6条 第3条に規定する事業の研修先及び研修期間等は、別に定める業務細則に基づくものとする。

第3章 事務手続き及び助成金の交付

第7条 第3条に規定する事業を実施し、助成金の交付を受けようとする者は、別に定める業務細則に基づく提出書類を期日までに代表理事に提出するものとする。

第4章 雑則

第8条 この業務規程の施行について必要な事項は、代表理事が別に定める。

附則

- 1 この規程は、平成 23 年 5 月 16 日から施行する。
- 2 財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務方法書（平成 5 年 3 月 16 日制定）は廃止する。
- 3 この規程において従前から引き継がれる事業の助成の額は、第 5 条の規定にかかわらず、施行後の最初の年度に限り従前の例によるものとする。

附則

この規程は、平成 23 年 10 月 31 日から施行する。（第 3 条第 1 項第 3 号の事業名称の変更）

附則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。（公益法人移行に伴う名称等の変更）

7 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則

(趣 旨)

第1条 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金（以下「基金」という。）の業務運営に関しては、公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程第4条、第5条、第6条及び第7条の規定により、次のとおり定めるものとする。

(業務の内容)

第2条 基金が行う助成対象事業の内容は別表1のとおりとし、助成額（助成率）及び助成の申請、請求、実績報告に伴う提出書類等並びに重要変更の内容は別表2のとおりとする。

2 事業対象である「青年等漁業者」とは、概ね55歳以下（ただし、女性の場合にあつては特に制限を設けない。）の漁業者及び漁業を志向する者とし、「青年漁業者」とは、45歳以下とする。

3 対象事業は原則として一年度とする。ただし、別表3に掲げる事業については、その定めるところによる。

(助成金の申請)

第3条 助成金の交付を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、別表2の定めるところにより地区漁業担い手育成推進協議会（以下「地区協議会」という。）を経由し、原則として、事業を着手しようとする日の30日前までに代表理事に申請しなければならない。ただし、県段階の組織は地区協議会の経由を要しない（以下同じ。）。

(助成金の決定)

第4条 代表理事は、提出のあった申請の内容を審査し、その適否を決定し地区協議会を経由して申請者に通知するものとする。

2 代表理事は、助成事業の目的を達成するため、必要に応じ条件を付することができるものとする。

(変更承認申請書)

第5条 助成金の交付決定を受けた者（以下「助成事業者」という。）が、別表2に掲げる重要変更該当する事業変更を行おうとするときは、速やかにその定めるところにより事業変更承認申請書を、地区協議会を経由して代表理事に提出し承認を受けなければならない。

(事業の中止)

第6条 助成事業者が、事業の遂行ができなくなったとき又は中止するときは、助成事業中止届を、地区協議会を経由して代表理事に提出し指示を受けるものとする。

(助成金の請求及び実績報告書)

第7条 助成事業者は、事業を完了した日から30日以内に、助成金請求書に実績報告書を添付し、地区協議会を経由して代表理事に提出しなければならない。

(助成金の交付)

第 8 条 助成金の交付は、原則として事業完了後に行う。ただし、やむをえない事情がある場合には、助成金の一部又は全部を前金払いで受けることができる。

(交付決定の取消)

第 9 条 代表理事は、助成事業者が次の各号のいずれかに該当する場合には、助成金の交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

- (1) 前条の規定に違反したとき又は第 4 条第 2 項に規定する助成金の決定に際し付した条件に違反したとき
- (2) 助成金を他の用途に使用したとき
- (3) 偽り、その他不正な手段により助成金の交付を受けたとき
- (4) 業務規程等に違反したとき

(助成金の返還)

第 10 条 助成事業者は、第 9 条の規定により助成金の交付を取り消された場合において、取り消しに係る部分に関し、既に助成金が交付されているときには、それを返還しなければならない。

2 前項の規定は、第 5 条の規定による助成金の交付の決定を変更した場合についても準用する。

(書類等の整備)

第 11 条 助成金の交付を受けた者は、その証拠書類、帳簿等を整理し、事業完了の翌年から 5 年間保管しなければならない。

附則

- 1 この細則は、平成 23 年 5 月 16 日から施行する。
- 2 従前の財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則（平成 5 年 3 月 16 日制定）は廃止する。

附則

この細則は、平成 23 年 10 月 31 日から施行する。（別表 1,2,3 の助成額及び事業名称等の変更）

附則

この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。（公益法人移行に伴う名称等の変更）

細則 別表1(第2条関係) 事業の目的、内容及び事業対象者

事業区分	事業目的・内容等	事業対象者	事業の種類
1 漁業担い手確保対策事業			
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	<p>1 目的 地域の小中学生を対象とした漁業体験・学習等を支援し、漁業への理解と憧れを形成する。</p> <p>2 内容 漁業の体験及び学習等(水産物の加工含む。)に要する経費(材料費、保険料、移動経費等)の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青年等漁業者が組織する団体 ・漁業協同組合 ・青少年育成組織 ・水産高校等 	助成事業
(2) 水産高校等連携育成事業	<p>1 目的 水産高校等と連携して生徒の漁業に関する実践的な技術の向上を目的に行う現場実習等を支援し、漁業に対する理解と関心を高める。</p> <p>2 内容 (1) 生徒の現場実習経費の助成 (2) 技術者の学校での実践的指導経費の助成 (3) 漁業・加工技術等の共同研究等経費の助成 (4) 小中学校との連携に要する経費の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者で構成する連携組織又は水産高校等 	助成事業
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	<p>1 目的 漁業就業を志向する青年等を対象とした漁業体験・学習等を支援し、漁業就業意識を高める。</p> <p>2 内容 (1) 漁業の体験、現地見学会の開催等経費の助成 (2) 漁業就業に関する知識習得研修に係る経費の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区協議会 ・漁業協同組合等 	助成事業
2 漁業担い手育成対策事業			
(1) 新規漁業就業者交流事業	<p>1 目的 新たに漁業に就業した青年等の漁業への取り組みを促進するため、情報交換等ネットワークづくりを進め、新規漁業就業者の早期定着化を図る。</p> <p>2 内容 新規漁業就業者(就業3年以内の者)の情報交換会を開催する経費の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区協議会 ・漁業協同組合等 	助成事業
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	<p>1 目的 新規漁業就業者(就業3年以内の者)が養殖業等自立経営を目指して、地元先達漁家において起業に必要な基礎的知識・技術を修得する場合に、受入経営体及び実践研修生に対して支援することにより、自立経営への円滑な移行を促進する。</p> <p>2 内容 (1) 受入経営体 地域において養殖業及び採介藻漁業を営む計画を有する新規漁業就業者の指導に要する経費(6月以上1年以内で25日以上指導)の助成 (2) 実践研修生 研修期間(6月以上1年以内)内に小型船舶操縦士免許を取得するための受講に要する経費(講習受講料) ただし、漁家子弟の場合にあっては親元での漁業従事を研修と看做することができる。</p>	<p>(1) 受入経営体(実践研修生と3等親内の者除く)</p> <p>(2) 実践研修生 次の要件を全て満たしていること ア 40歳未満の者 イ 6月以上研修を行う者 ウ 営漁する計画を有する者 ただし、漁家子弟にあってはイ、ウの条件は満たしているものと看做す。</p>	助成事業
(3) OJT研修支援事業	<p>1 目的 青年漁業者の国内先進漁家、企業体、市場等での研修又は課題解決能力向上のためのOJT研修を促進し、優れた青年漁業者の育成と地域漁業の中核者としての活動促進を図る。</p> <p>2 内容 (1) 国内先進漁家等技術研修受講経費の助成(1月以内) (2) 新規漁業就業者OJT研修経費の助成(3月以内)</p>	<p>(1) 青年漁業者、新規漁業就業者</p> <p>(2) 次の要件を全て満たす者 ア 県内において継続して5年間漁業に就業した青年漁業者 イ 研修終了後においても漁業に従事すると見込まれる者 ウ 研修計画を有する者</p>	助成事業

細則 別表1(第2条関係) 事業の目的、内容及び事業対象者

事業区分	事業目的・内容等	事業対象者	事業の種類
3 青年等漁業者組織活動支援事業			
(1) 研究グループ等活動事業	<p>1 目的 漁業経営や漁家生活等の発展向上を図るため研究開発及び研究実践活動又は経営改善研修及び各種資格取得研修の開催・受講に取り組む漁業青年等グループの自主的活動を支援し、漁業青年等の創造性と研究実践意欲の高揚及び漁村地域の活性化を図る。</p> <p>2 内容 (1) 研究実践活動経費の助成 漁業生産技術の開発・導入試験、水産物の加工技術の開発研究、生産物の付加価値向上試験、漁業及び生活に関する研究実証、新産地育成・むらづくり活動等に要する経費(材料費等) (2) 研修活動経費の助成 漁業技術修得、経営改善、水産物加工技術修得、各種資格取得等の活動に要する経費(旅費、受講料、講師謝金、会場費等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 青年等漁業者3人以上で構成されかつ漁業又は漁家生活等の研究活動を推進する目的で組織されているグループ(以下「青年等グループ」という。) 	助成事業
(2) 青年等交流活動促進事業	<p>1 目的 グループ活動の活性化や青年等漁業者の資質向上を図るため地区又は全県範囲で開催する情報交換会や活動実績発表大会及び青年等グループの都市・漁村間交流等の活動を支援し、意欲ある担い手の育成と漁村地域の活性化を図る。</p> <p>2 内容 (1) 情報交換会の開催及び都市・漁村間等交流に要する経費の助成(会場費、講師謝金・旅費、材料費、交通費等) (2) 地区活動実績発表大会開催経費の助成(会場費、謝金・旅費、消耗品等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区又は全県範囲で主催する実施組織 青年等グループ 	助成事業
(3) 地域リーダー研修事業	<p>1 目的 漁村地域リーダー相互の情報交換等を通じ地域リーダーとしての資質の向上を図るとともに、その自主的活動を促進する。</p> <p>2 内容 漁業生産、漁村、漁家生活等の環境づくり及び地域の担い手育成等漁村の活性化を推進するリーダーの育成を目的とした地区又は全県範囲の研修会等の開催に要する経費の助成(会場費、謝金・旅費、消耗品等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区又は全県範囲で主催する実施組織 	助成事業
4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業			
(1) 地区協議会活動事業	<p>1 目的 漁業担い手対策を総合的に推進するため、大船渡、釜石、宮古、久慈の各地区に設置されている地区漁業担い手育成推進協議会に対し活動費等を交付し、地区の漁業担い手対策に資する。</p> <p>2 内容 地区協議会活動費の交付</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区協議会 	助成事業
5 特別対策事業			
(1) 特認事業	<p>漁業後継者及び漁業担い手を確保、育成するために理事長が特に実施する必要があると認める事業。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区協議会等 	助成事業
(2) その他事業	<p>基金が自ら実施する事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新規漁業就業者等 	主催事業

細則 別表2 (第2条、第3条、第5条関係)

助成対象事業の助成額(助成率)及び助成の申請、請求、実績報告に伴う提出書類、重要変更の内容

事業名	助成額(助成率)	助成金申請		助成金請求		重要変更	
		助成金申請書 ・添付書類	様式	助成金請求書 ・添付書類	様式		
1 漁業担い手確保対策事業							
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	1団体 5万円以内	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第1号 第2号 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第1号 第2号 任意	助成金額の20%を超える減	
(2) 水産高校等連携育成事業	1団体 100万円以内 【対象経費】 生徒指導に係る材料費、謝金、技術者派遣旅費、共同研究等・小中学校連携に係る材料費	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第3号 任意 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第3号 任意 任意	助成金額の20%を超える減	
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	1事業 15万円以内	①交付申請書 ②実施計画書	第4号 第5号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第4号 第5号 任意	助成金額の20%を超える減	
2 漁業担い手育成事業							
(1) 新規漁業就業者交流事業	1事業 5万円以内	①交付申請書 ②実施計画書	第6号 第7号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第6号 第7号 任意	助成金額の20%を超える減	
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	・受入経営体	1経営体 30万円以内/年額 (指導に要する経費)	①交付申請書 ②実施計画書 ③営漁プラン ④漁協推薦書	第8号 第9号 第10号 第11号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第8号 第9号 任意	助成金額の20%を超える減
	・実践研修生	10万円以内 (小型船舶操縦士免許講習受講経費)	①交付申請書	第12号	①交付請求書 ②実績報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第12号 任意	助成金額の20%を超える減
(3) OJT研修支援事業	・国内先進漁家等技術研修(1月以内)	1人 10万円以内 【対象経費】 研修機関等への納入額、交通費、教材費	①交付申請書 ②実施計画書 ③身上調書 ④漁協推薦書	第13号 第14号 第15号 第16号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第13号 第14号 任意	研修先の変更
	・新規漁業就業者OJT研修(3月以内)	1人 30万円以内 【対象経費】 研修指導者謝金、教材費	①交付申請書 ②実施計画書 ④身上調書 ⑤漁協推薦書	第17号 第18号 第15号 第16号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第17号 第18号 任意	助成金額の20%を超える減

細則 別表2 (第2条、第3条、第5条関係)

助成対象事業の助成額(助成率)及び助成の申請、請求、実績報告に伴う提出書類、重要変更の内容

事業名	助成額(助成率)	助成金申請		助成金請求		重要変更	
		助成金申請書 ・添付書類	様式	助成金請求書 ・添付書類	様式		
3 青年等漁業者組織活動支援事業							
(1) 研究グループ等活動事業	・研究実践活動	1課題 30万円以内	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第19号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号	研究課題及び研修先の変更 助成金額の20%を超える減
	・研修活動	1グループ 20万円以内		第20号		第19号	
	・資格取得活動	1グループ 20万円以内(1/2以内)		任意		第20号	
(2) 青年等交流活動促進事業	・情報交換、交流等活動	1事業 20万円以内	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第21号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号	助成金額の20%を超える減
	・地区活動実績発表大会	1事業 10万円以内		第22号		第21号	
(3) 地域リーダー研修事業		1事業 10万円以内	①交付申請書 ②実施計画書	第23号 第24号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第23号 第24号 任意	助成金額の20%を超える減
4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業							
地区協議会活動事業	別途定める		①交付申請書 ②事業計画書(協議会の計画) ③規約	第25号 任意 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第25号 任意 任意	助成金額の20%を超える減
5 特別対策事業							
特認事業	別途定める		①交付申請書 ②実施計画書 ③規約	第26号 第27号 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第26号 第27号 任意	助成金額の20%を超える減

注:1 事業を複数年に渡って申請するに際し、その内容に変更がない場合は、翌年度以降の添付書類を省略することができる。

2 上記以外の手続きの様式は、次のとおり。

変更承認申請書 (第5条関係)	様式第 29 号
事業中止届 (第6条関係)	様式第 30 号
前金払い請求書 (第8条関係)	様式第 31 号
助成金交付決定通知書 (第4条関係)	様式第 32 号

細則 別表3(第2条関係) 事業実施期間

事業名	実施期間
1 漁業担い手確保対策事業	
水産高校等連携育成事業	平成23年度から平成27年度
2 漁業担い手育成事業	
新規漁業就業者技術研修事業	年度を跨ぐ場合は当年度と次年度
3 青年等漁業者組織活動支援事業	
研究グループ等活動事業	最長3年(1課題)